

神奈川県聴覚障害者福祉センターの概要

(令和 7 年 3 月 31 日現在)

- 1 名称及び所在地 神奈川県聴覚障害者福祉センター
〒251-8533 藤沢市藤沢 933 番地の 2
電 話 (0466) 27-1911
ファクス (0466) 27-1225
ホームページ <https://www.kanagawa-wad.jp>
メールアドレス office@kanagawa-wad.jp
- 2 設 置 年 月 日 昭和 55 年 4 月 1 日
- 3 設 置 目 的 聴覚障がい児者の社会的自立を促進するため、各種相談、社会適応訓練、日常生活に必要な情報の提供、聴覚障がい児の早期訓練及び手話通訳者や要約筆記者の養成と派遣等を行い、聴覚障がい児者の福祉の増進を図ることを目的とする。なお、身体障害者福祉法第 34 条に基づく聴覚障害者情報提供施設として指定されている。
- 4 設 置 主 体 神奈川県
- 5 指 定 管 理 者 社会福祉法人 神奈川聴覚障害者総合福祉協会
- 6 施 設 の 概 要 土地面積 1,459.21 m²
建物面積 1,678.78 m²
鉄筋コンクリート造地上 2 階、地下 1 階
(1 階) 相談室、聴力検査室、指導室、補聴相談室、
遊戯室 (プレイルーム)、事務室、
喫茶室、ラウンジ
(2 階) VTR スタジオ及び制作室、大・小講習室、会議室、
ボランティア室、和室、
公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会事務室
(地下) 資料室、神奈川県盲ろう者支援センター、機械室、
ピロティ
(屋上) 太陽熱集熱装置

令和 6 年度の強化事業

1 県立施設としての役割

神奈川県聴覚障害者福祉センターの県立施設としての役割について、内部で再度検討をすすめ、現時点では、次の 3 点に整理した。

- ① 専門性（市町村では対応が困難な専門性が高い事業を行う）
- ② 情報発信（聴覚障がい者側、聴覚障がい側からの情報を発信する）
- ③ 市町村支援（市町村が自立して聴覚障がい福祉を担えるよう支援する）

各事業において、この 3 点から再度事業を見直し、令和 6 年度は可能なものから改善をすすめていくこととした。県立施設としての役割については、今後も検討を続ける。

2 令和 6 年度の強化事業

（1）ICT の普及、活用

- ア 養成講習会等申込方法等での Web フォーム導入
- イ 社会生活力講座での ICT 関連の実施及び企業等との連携
- ウ オンラインでの聴覚障がい理解講座の継続実施

（2）手話月間に関連しての事業実施

- ア 高校生対象「聴覚障がいについて知る講座」の開催方法、時期の変更

（3）聴覚障がいに特化した社会資源の開拓

- ア 高齢者施設、就労支援事業所等に出向いての、聴覚障がい理解のための講座、研修会を周知

（4）地域への支援の拡充

- ア 地域での講座、研修、行事等の聴覚障がい理解のニーズへの対応
- イ 地域包括支援センター、高齢者施設、地域のろう協、高齢ろう者、障がい福祉課等への情報提供。

（5）聴覚障がい児（重複含む）の療育場所への不足への対応

- ア 聴覚障がい児支援中核機能との連携

（6）情報保障者不足への対応

- ア 手話通訳者理解動画の活用
- イ 関係団体との協議による、設置手話通訳者の指針作成

令和 6 年度事業報告

神奈川県聴覚障害者福祉センターは、昭和 55 年 4 月 1 日開設以来 44 年を経過した。令和 3 年度から、4 期目の指定管理者として、県との協定に基づき事業を実施した。聴覚障がい乳幼児・学齢児、ろうあ者、中途失聴者、難聴者等聴覚障がい児者を対象として、各種相談、社会適応訓練、日常生活に必要な情報の提供、聴覚障がい児の早期支援、手話通訳者及び要約筆記者の養成・派遣等を行い、聴覚障がい児者の社会的自立の促進と福祉の増進を図るため次の事業を行った。

また、基本的な感染症予防対策（適切なマスク着用、三密の回避、手洗い等の手指衛生、効果的な換気等）も行った。

1 相 談

利用者のライフステージに応じて、聴覚障がい児者と家族及び関係者を対象に相談を行った。

利用者の状況に応じて、適切な情報提供、助言等を行い、課題解決に結びつけていくもの、支援（補聴支援、聴覚障がい乳幼児支援、コミュニケーション支援等）につなげていくもの、関係機関、関係団体等と連携するものなどがあり、利用者とともに課題解決に向けて、一緒に考え、一緒に解決に向けて歩んでいくことで、利用者の自己選択、自己決定を支援した。

主訴による相談の中から、利用者の思いから、様々な相談へ枝分かれしていくことがある。一つひとつの相談を大切に、課題解決に向けた情報提供にも努めた。

また、利用者が地域の一員として、自己実現が可能となるよう、市町村と一体となった支援のために、市町村への適切な情報提供、地域へ赴いての連携など、市町村の聴覚障がい福祉向上のための支援も行った。

来所等継続相談では、担当別に、聴覚障がい乳幼児・学齢児、ろうあ者、中途失聴者・難聴者相談を行うとともに、耳鼻科医師による医療相談を行った。原則として予約制とした。電話、ファックス、メール、SNS、オンライン会議システム等を利用した相談も実施した。

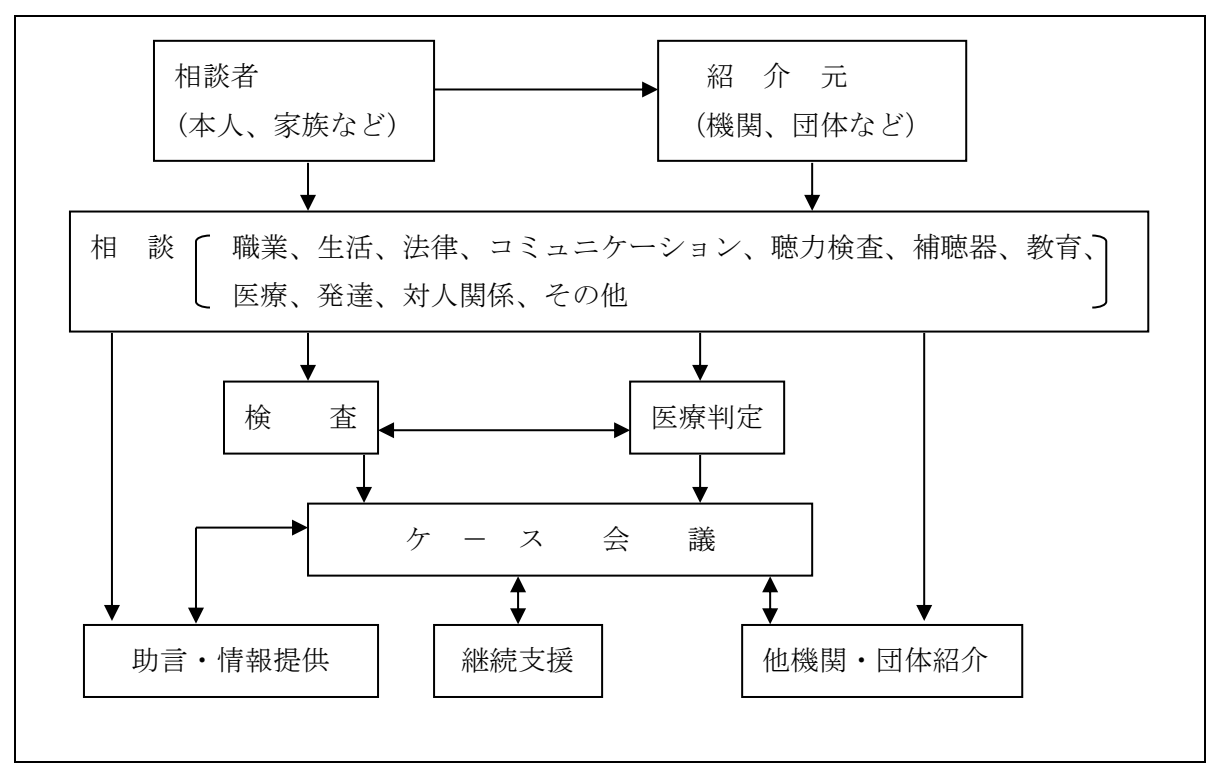
映像によるオンラインでの相談件数は 137 件であった。

ろうあ者相談、中途失聴者・難聴者相談では、より利用者に寄り添った相談、支援につなげるため、ピアカウンセリングを実施した。

また、電話・ファックス等単発相談（電話、ファックス、メール、来所等）も行った。

相談件数は、4,007 件（来所等継続相談 3,867 件、電話・ファックス等単発相談 140 件）であった。

また、地域での相談会を実施した。当センターから離れた地域を中心に、聴覚障がい児者の地域のニーズを掘り起こし、市町村と連携してコミュニケーション、社会生活支援などにつなげて、どの地域でも同様の福祉サービスが受けられる環境の構築をめざした。相談の実施とともに、聴覚障がいに関する情報提供、聴覚障がい者用の機器の紹介等も合わせて実施した。



(1) 来所等継続相談

ア 対象別内訳

区 分	件 数	対象別内訳	件 数	計	合計
聴覚障がい児等	710 件	乳幼児	451 件	3,842 件	3,867 件
		学齢児	259 件		
聴覚障がい者等	3,132 件	ろうあ者	802 件		
		中途失聴者・難聴者	2,330 件		
医 療 相 談			25 件	25 件	

イ 年齢・年代別内訳

聴 覚 障 が い 児 等									
乳 幼 児							学 齢 児		計
0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	小学生	中学生	高校生
57 件	50 件	63 件	58 件	61 件	93 件	69 件	240 件	15 件	4 件
710 件									
聴 覚 障 が い 者 等									
10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代	90 代以上	計
14 件	43 件	88 件	322 件	495 件	265 件	687 件	1,092 件	151 件	3,157 件

(注1) 聴覚障がい者等の10代には、中・高校生を除いている。

(注2) 聴覚障がい児等、聴覚障がい者等には医療相談の件数を含む。

ウ 主訴別内訳

(ア) 乳幼児・学齢児相談

年間の実相談人数は 94 人であった。

映像によるオンラインでの相談件数は 17 件であった。

相談の主訴はコミュニケーション関係が最も多い。乳幼児期は、子どもの言葉の発達や聞こえの反応等への不安、難聴と診断されて今後どのように育っていくのかという不安、周りの友達や先生等との関わりについての悩み等を抱えた保護者からの相談が多い。また、今年度は学齢児の相談件数が増加している。地域の学校でどのように自分の聞こえ等を周囲に理解してもらうか、文字や補聴援助システム等のより良い活用方法は何か等について、保護者や関係機関等と連携しながら支援を進めている。

新規相談人数は 47 人で、市町村の母子保健や発達相談からの紹介が最も多い。今後も聴覚障がい児の早期発見、早期支援へとつなげていくために、引き続き市町村、医療機関、教育機関等の、各関連機関との連携を強化していきたい。

区 分	聴力 検査	補聴器 関係	コミュニケーション 関係	指導機関 ・進路	医療 関係	福祉 関係	関係機関 連絡調整	その他	計
件 数	94 件	100 件	310 件	61 件	26 件	49 件	59 件	11 件	710 件

(イ) ろうあ者相談

年間の実相談人数は 52 人、新規相談人数は 15 人であった。

手話での映像によるオンラインでの相談件数は 120 件であった。また、SNS の LINE チャット機能を活用した、文字でのメール相談は 143 件と、増えてきている。

相談の傾向としては、ほとんど横ばいとなっているが、特に生活関係は急増している。高齢者の生活、介護問題などで家族から、関係者から相談が寄せられている。行政、地域包括支援センターなど、コミュニケーションの支援につなげる取り組みをしている。職業関係も同様、ハローワーク、障害者就労支援センター、事業所などの関係機関と引き続き連携している。

また、精神障がいを持つろう者も増えてきている。定期的な傾聴を継続しながら、医療機関、関係機関とのケース会議に参加し、連携して支援している。

市町村の設置手話通訳者との連携強化もすすめている。設置手話通訳者の設置地域、日数増加により手話で相談できる体制が、市町村で充実しつつある。

今後も市町村設置手話通訳者、公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会などの関係団体等と情報共有をはかりながら、支援につながるよう努めたい。

区 分	職業 関係	コミュニケーション 関係	対人 関係	生活 関係	福祉 関係	医療 関係	法律 関係	補聴器・ 聴力検査	その他	計
件 数	219 件	44 件	64 件	346 件	33 件	41 件	4 件	25 件	26 件	802 件

手話によるオンライン相談

区 分	職業	コミュニケーション	対人	生活	福祉	医療	法律	その他	計
件 数	33 件	0 件	13 件	62 件	7 件	3 件	0 件	2 件	120 件

(ウ) 中途失聴者・難聴者相談

年間の実相談人数は **325** 人、新規相談人数は **119** 人であった。

高齢者の補聴器に関する相談が多い。その内訳をみると、後期高齢者が圧倒的に多い。認知症のリスク要因に難聴が高い割合で挙げられていることが補聴器を考えるきっかけになっている。

しかし、家族等の周囲に促されて来所したものの、本人に動機や困り感がないと補聴器はただ煩わしいものとなり、試聴はするものの、装用には至らないケースもあった。本人に補聴器装用の意欲がない一方で、家族は装用してほしいと、思いが一致しないケースは昨年と同様である。どう対応したらいいか、苦慮する。

来所者の紹介やインターネット検索で相談につながっていることが依然として多い。

若年層の場合は、障がい受容の問題、聴覚障がいと他の疾患を併せ持つケース、

就労の問題など、複雑化している。

特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協会などの当事者団体との連携も欠かせない。

区 分	聴力 検査	補聴器 関係	コミュニケーション 関係	生活 関係	医療 関係	福祉 関係	その他	計
件 数	296 件	1,621 件	2 件	147 件	152 件	112 件	0 件	2,330 件

(エ) 医療相談（隔月 1 回）

非常勤耳鼻科医師による相談を行った。聴覚障がいや聴力回復の可能性等について、耳鼻科医師の立場から時間をかけて情報提供、助言を行っている。このことで、障がい受容のための支援につなげている。

区 分	身体障害者手帳	補聴器意見書	その他	計
件 数	8 件	12 件	5 件	25 件

(2) 電話・ファックス等による単発相談

電話、ファックス、メール、来所などで様々な単発の相談に応じた。

区 分	福祉・制度	補聴器関係	コミュニケーション 関係	医療関係	その他	計
件 数	95 件	2 件	24 件	10 件	9 件	140 件

(3) 地域における相談会

地域における相談会は、当センターからの離れた地域として横須賀市、箱根町で実施した。実施にあたっては、開催地の行政の協力を得た。

必要に応じて、補聴器の調整等に関することや、聴覚障がい乳幼児支援に関する相談は、来所等継続相談につなげた。

ア 地域相談会

(ア) 日 時 令和 6 年 11 月 17 日（土）13：00～15：00

(イ) 場 所 横須賀市立総合福祉会館

(ウ) 内 容

- a 聴覚障がい児者相談
- b 聴覚障がい者用福祉機器の展示、説明
- c 聴覚障がい及び当センター事業関係チラシ・パンフレット等の紹介、配布
- d 自主制作番組の放映

(エ) 来場者数 9 人

(オ) 件 数 22 件

- (カ) 協 力 横須賀中途失聴・難聴者の会「こだま」
- イ 補聴相談会
- (ア) 日 時 令和6年9月25日(水) 10:00~15:00
- (イ) 場 所 箱根町役場分庁舎
- (ウ) 内 容
- a 補聴相談
 - b 聴覚障がい者用福祉機器の展示、説明
 - c 聴覚障がい及び当センター事業関係チラシ・パンフレット等の紹介、配布
- (エ) 来場者数 4人
- (オ) 件 数 7件



地域相談会会場風景

2 支 援

聴覚障がい児者が、ろう者、中途失聴者、難聴者として堂々と地域で自分らしく生きていくために、補聴支援（聴力検査、補聴器適合、自立支援等）や聴覚障がい乳幼児支援、聴覚障がい者を対象としたコミュニケーション支援を行い、コミュニケーション方法の習得や改善、聴覚障がい者同士のグループによるピアサポート等によるアイデンティティの確立や障がい受容の促進により、聴覚障がい児者の自立と社会参加を支援した。

また、聴覚障がい者側、聴覚障がい側から情報発信を行うとともに、地域や関係機関、関係団体等との情報共有、連携をすすめた。

（1）補聴支援

聴力検査、補聴器適合等、自立支援を行い、聴覚障がい児者が、日常的にコミュニケーションが取りにくい、取れない状況の改善を支援した。

聴力検査は、聴覚状況の管理、分析だけでなく、聴覚障がい児者が自らの聴力等の状態を理解し日常生活の改善に役立てることを促すとともに、補聴器調整にも活用した。

補聴器を日常生活で有効に活用していくために、補聴器を調整、適合し、学校、自宅、会社等での試聴を繰り返し行い、他機種による違いの確認等を、聴覚障がい児者や家族等が実践し、補聴器やコミュニケーションの改善方法について、理解を深めていく支援を行った。また、感音難聴の特徴、補聴器の効果と限界、周囲の協力による効果拡大などの情報提供も行った。

聴力検査、補聴器体験等に基づいた自立支援として、聴覚障がい児者等の状況に合わせて、段階的に、助言及び情報提供による支援を行い、アイデンティティの確立や、障がい受容の促進の支援を行った。

自立支援として、次の支援を行った。

支援区分	目 標
補聴器に関する自立	補聴器の特徴を理解し、補聴器を活用しての日常生活の改善を行えること。また、補聴器の調整、選定及び故障時の対応等における補聴器販売店の活用を行える等、補聴器に関する全般について自己選択、自己決定が行える。
聴力管理の自立	自らの聴力について理解し、定期的に聴力を確認し、変動時の耳鼻科受診などの緊急対応を含めて、聴力を確認し管理できる。
コミュニケーションの自立	自らのコミュニケーション方法を理解し、相手に対しても自らのコミュニケーション方法を説明、理解を促し、自らがコミュニケーションしやすい環境を培うことができる。
心理的自立	聴覚障がいの特徴を理解し、自らの状況を理解するとともに、現状を受け入れ、現状に立った自らの生き方設計を行うことができるとともに、自らの状態を他者に伝え、理解を得られる。

区 分		件 数	
聴力検査		395 件	
補聴器適合		885 件	
他の検査（言語機能・知能・発達等）		10 件	
自立支援	補聴器に関する自立	914 件	1,489 件
	聴力管理の自立	363 件	
	コミュニケーションの自立	195 件	
	心理的自立	17 件	
合 計		2,779 件	

補聴器貸し出し件数 292 件

（２）聴覚障がい乳幼児支援

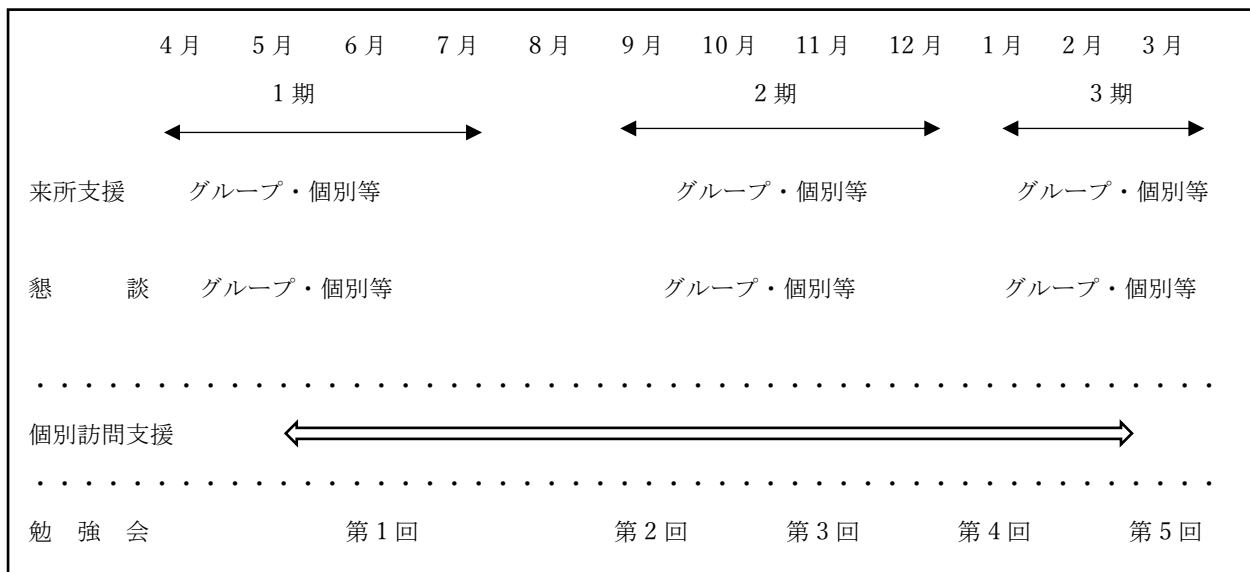
聴覚障がい乳幼児とその家族を対象に言語及びコミュニケーションについての支援を実施した。

様々なコミュニケーション方法を用いて、聴覚障がい乳幼児と家族等との共感関係の構築による、信頼関係を基本とした。聴覚障がい乳幼児のコミュニケーション意欲を向上させ、家庭内及び社会での体験等を繰り返し実施することで、家族等が聴覚障がい乳幼児と向き合い、接していく姿勢を養うとともに、総合的なコミュニケーション能力の向上、発達と社会性の習得を図った。

来所支援は、３期制（４月～７月、９月～１２月、１月～３月）とした。原則週１回～月１回程度、年齢別のグループまたは個別での支援を行った。期ごとに支援の開始前のオリエンテーション、終了後には、まとめ会として懇談を実施し、期ごとの目標設定、成果と課題等の話し合いを行った。

個別訪問支援では、地域に赴き、幼稚園、保育所等での聴覚障がいの理解、コミュニケーション方法の留意事項等に関する支援を行った。

勉強会は、聴覚障がいに関する理解を深める機会として、様々なテーマで年５回実施した。在室児を含め、聴覚障がい児の保護者、家族、関係者等多くの人に参加してもらえよう、対象を広く設定して実施した。



ア 在室児数

0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
1 人	1 人	2 人	1 人	4 人	1 人	10 人

イ 支援区分

区 分	回 数	支援人数	延支援人数
年齢別グループ来所支援	50 回	25 人	120 人
懇 談	18 回	12 人	30 人
個別訪問支援（幼稚園等）	2 回	6 人	6 人
勉 強 会	5 回（5 回）	107 人	143 人（107 人）
合 計	75 回（5 回）		299 人（107 人）

※ 支援人数は、在室児と保護者を含む。

※ () 内はオンラインの、回数または延支援人数の、内数。

※ 来所支援回数は、個別、合同での支援を含む。

ウ 年齢別来所支援回数

区 分	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児
来所支援	4 回	7 回	8 回	16 回	7 回	14 回

※ 回数は、合同での来所支援回数を年齢別にカウントした回数を含む

エ 地域別個別訪問支援回数

市町村名	回 数
藤 沢 市	2 回
計	2 回

オ 勉強会

期 日	テーマ	講 師	定員	参加者数
令 6.6.8	学校の授業、友達とのやり取り、どうしている？軽度難聴児の学校の様子をお父さんお母さんから聞いてみよう (参集・オンライン併用)	細川 憲吾 氏 細川 美幸 氏	参集 20 人	59 人 参集:20 人 OL : 39 人
令 6.7.20	難聴の娘（高校生）の今までとこれから (参集・オンライン併用)	湘南聴覚障害児親の会 代表 小島 裕子 氏	参集 10 人	19 人 参集 : 2 人 OL : 17 人
令 6.9.21	聞こえない大学生の体験談(参集・オンライン併用)	金子 碧斗 氏	参集 10 人	22 人 参集 : 7 人 OL : 15 人
令 7.1.25	難聴者の体験談 (参集・オンライン併用)	長友 愛莉 氏	参集 10 人	19 人 参集 : 2 人 OL : 17 人
令 7.3.8	難聴者の体験談～今までを振り返って思うこと～ (参集・オンライン併用)	小松 康代 氏	参集 10 人	24 人 参集 : 5 人 OL : 19 人

※ オンライン参加には、定員を設けていない。

※ 「OL」はオンライン。参加者数の参集、OL は内数。

(3) コミュニケーション支援

聴覚障がい者を対象に、より良いコミュニケーション手段、方法を身につけるために行った。また、社会参加につながる一つのステップとして考えている。

手話、読話、ICT 活用等の多様なコミュニケーションについて、グループで総合的に支援するコミュニケーショングループ支援と、聴覚障がいに関する情報を共有するために単月 1 回行うコミュニケーション支援講座を実施した。

講師は、職員をはじめ、聴覚障がい者、要約筆記者及び専門の講師が担った。

コミュニケーショングループ支援は、令和 5 年度からコミュニケーション方法別の手

話教室、読話教室を統合し、ニーズが拡大している ICT 活用等を加えたコース（15 回）に再編した。令和 6 年度は 2 コース実施した。

コミュニケーショングループ支援は、同じ障がいを持った仲間と学ぶことで精神的負担を軽減するグループワーク的效果を期待するとともに、手話、読話などのコミュニケーション方法の段階的な習得や、聴覚障がい、コミュニケーション等の総合的な学習の場を設け、アイデンティティの確立や、障がい受容を支援した。特に中途失聴者、難聴者は、自らの周囲には同じ障がいを持った仲間が存在しないため、同じ障がいを持った仲間と接した経験が乏しく、アイデンティティの確立や、障がい受容の課題を抱えている。特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協会の協力も得ながら、社会参加の推進にも努めた。手話に関しては、手話奉仕員養成講座のようなカリキュラムではなく、参加した利用者の状況に応じてカリキュラムを作成し、最終的には簡単な手話で、会話ができる程度の手話が定着することを目指した。読話に関しては、口形だけでなく、話し手の表情や、会話の前後関係等から話の内容を類推するもので、読話の特徴、方法の基礎を学習した。また、手話、読話だけでなく、筆談、補聴器なども活用して、相互理解をはかりながら、すすめた。ICT 活用に関しては、音声認識アプリの紹介、操作、活用方法や電話リレーサービスの紹介など、日常生活でのコミュニケーションの円滑化を図った。これらを総合的に実施することで、アイデンティティの確立や、障がい受容を促すとともに、コミュニケーションの幅を広げ、手話、読話、ICT 活用、補聴器等を組み合わせるにより、正確なコミュニケーションを図ることを目指した。

コミュニケーション支援講座は、主に中途失聴者、難聴者を対象に、聴覚障がいに関わるコミュニケーション、福祉制度、補聴器や福祉機器など、聴覚障がいに関わる情報を学ぶ場として単発で実施した。同じ障がいを持った仲間と接する機会を設けることで、アイデンティティの確立や、障がい受容の促進を目指した。聴覚障がい者が日常生活を自分らしく過ごすためには、周囲の理解、特に家族の理解は重要なため、聴覚障がい者の家族にも参加を呼びかけた。参集だけでなく、オンラインも併用して開催した。オンラインによる参加者は昨年度より増加した。

区 分	回 数	定 員	参加人数	延人数
コミュニケーショングループ支援（前期）	15 回	8 人	4 人	50 人
コミュニケーショングループ支援（後期）	15 回	8 人	6 人	53 人
コミュニケーション支援講座	12 回（9 回）	各 20 人	234 人	234 人(66 人)
合 計	42 回（9 回）			337 人(66 人)

※ （ ）内は、オンラインの回数または延人数の、内数。

※ オンラインには、参集・オンライン併用を含む。

コミュニケーション支援講座（月 1 回）

回	テ ー マ	定員	開催方法	参加者数
1	きこえの基礎知識（医師の講演）	20 人	参集・オンライン併用	26 人（12 人）
2	豊かなコミュニケーションのために	20 人	参集・オンライン併用	18 人（5 人）
3	読話って何？きこえを助けるコミュニケーション方法	20 人	参集・オンライン併用	18 人（5 人）
4	体験談（1）	20 人	参集・オンライン併用	30 人（12 人）
5	手話をやってみよう①	20 人	参集	13 人
6	当事者として学び活かす情報アクセシビリティ	20 人	参集・オンライン併用	27 人（11 人）
7	きこえを助ける機器や便利なツール	20 人	参集・オンライン併用	18 人（7 人）
8	講演「鑑賞のための情報保障～バリアフリー字幕を楽しむ方法～」	20 人	参集・オンライン併用	20 人（9 人）
9	手話をやってみよう②	20 人	参集	15 人
10	要約筆記の上手な利用方法	20 人	参集・オンライン併用	13 人（1 人）
11	手話をやってみよう③	20 人	参集	15 人
12	体験談（2）自分のきこえを伝えてみよう	20 人	参集・オンライン併用	21 人（4 人）

※（ ）内は、オンラインの参加者数。内数



3 ビデオライブラリー

情報提供の一つとして、自主企画作品や講演収録などの制作を行うとともに、ライブラリー用に DVD を制作し、聴覚障がい者や手話学習者等に貸し出しを行った。

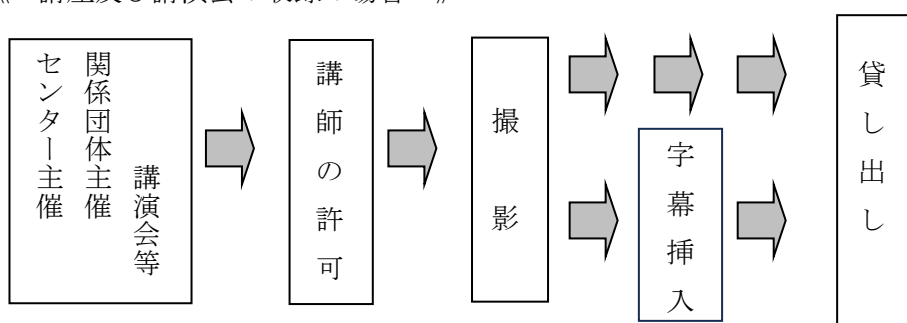
ICT の発展・普及に合わせて、ホームページでストリーミングでの動画配信を行い、聴覚障がい者へ手話での情報提供、聴覚障がいの普及啓発情報等を制作し、配信した。

事業等のオンライン実施にともない、配信番組の撮影及び制作も進めた。

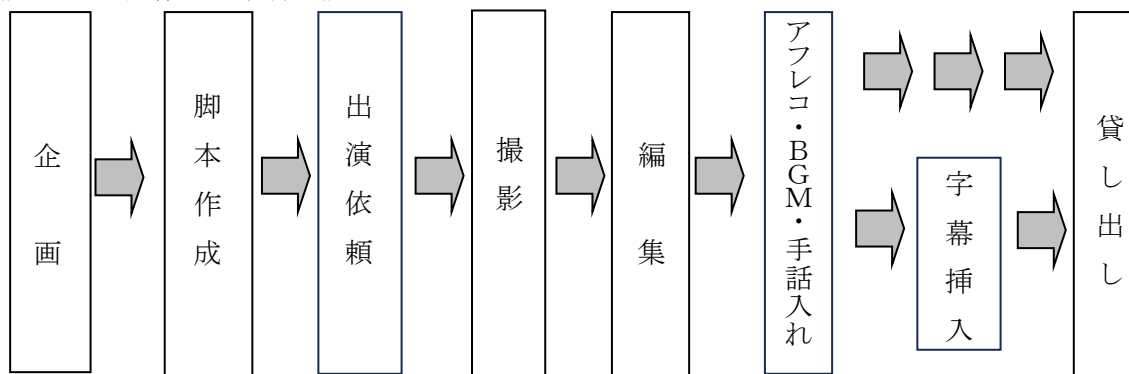
ロビーにあるテレビでの DVD 視聴及び聴覚障害者情報受信装置の視聴を行った。

また、関係団体等の番組制作等にも協力した。

《 講座及び講演会の収録の場合 》



《 自主企画作品の場合 》



(1) ビデオ制作

聴覚障がい者への支援のための情報発信、県民への聴覚障がい、聴覚障がい者への理解促進のための情報発信として番組を制作した。

ビデオライブラリーでの情報発信として、自主企画作品、講座収録、字幕制作の制作を行った。

また、ストリーミング配信のために、聴覚障がい者が日常生活に必要な情報を得やすくするための番組、手話への興味関心を普及するための番組、聴覚障がいや聴覚障がいの理解を普及啓発する番組、及び神奈川県藤沢警察署の協力を得て防犯に関する番組の制作を行った。オンラインで実施する研修会等の番組、教材等も制作した。

ア 制作内訳

区 分	内 容	タイトル数	本 数
ライブラリー用	講座撮影	8	24
	字幕制作	7	14
	自主企画作品	5	21
ストリーミング配信用	手話語り	12	12
	生活関連情報	21	21
	啓発動画	5	5
	手話普及等動画	6	6
	その他	2	2
教材等（配信含）		13	13
合 計		79	118

※ 「手話普及等動画」は、「みる劇場」及び「おしえて！先輩」等

※ 「その他」は、防犯シリーズ「詐欺について」「ロマンス詐欺について」

イ 内容別

区 分		タイトル数	本数
講座 撮影	令和 6 年度教養講座	1	3
	令和 6 年度神奈川県要約筆記者養成講習会共通講義	5	15
	令和 6 年度神奈川県三者共催要約筆記者研修会	1	3
	令和 6 年度神奈川県手話通訳者・要約筆記者派遣懇談会講演	1	3
字幕 制作	令和 6 年度教養講座	1	2
	令和 6 年度神奈川県要約筆記者養成講習会共通講義	4	8
	令和 6 年度神奈川県手話通訳者・要約筆記者派遣懇談会講演	1	2
	令和 6 年度「手話語り」総集編	1	2
自主 企画 作品	わたしの思い出写真館	2	6
	令和 6 年度「手話語り」総集編	1	4
	令和 6 年度手話通訳者養成講習会「通訳Ⅰ」受講者選考試験問題参考解答	1	10
	「目で聴くテレビ」提供番組「ご当地検定（神奈川県）」	1	1
手話 語り	大型自動車免許①、大型自動車免許②、少林寺拳法 その①、少林寺拳法 その②、奄美の手話、家族の事・仕事の事、中型バイク免許、パートの仕事、これまでと定年後の仕事、送迎ボランティア、リハビリを頑張った結果、運転の工夫	12	12

生活 関連 情報	ミニトマト？プチトマト？、「保育園の洗礼」って知ってる？、富士登山！通行料義務化！！、新紙幣発行、人食いバクテリアって知ってる？、あなたのストレス解消法は？、「ロマンス詐欺」に要注意！、「エアコン」を上手に使って熱中症対策を！、「アイススラリー」って知ってる？、「夏休み」はなぜある？、「南海トラフ地震臨時情報」って知ってる？、台風の「大きさ」と「強さ」とは？、「お米」を美味しく保つには？、「秋の七草」って知ってる？、パトカーの赤色点滅がかわります！～聴覚障がい者にもわかりやすく～、自転車運転の罰則強化！、「デジタル遺品」って知ってる？、冬野菜は、なぜ甘い？、「ビジネスケアラー」って知ってる？、「LED 電球」を選ぶときの注意！、「パスポート」が新しくなりました！	21	21
啓発 動画	国際手話について、手話通訳者・要約筆記者派遣、手話言語の国際デー、聴覚障害者用情報受信装置、日本語字幕付映画	5	5
手話 普及等 動画	おしえて！先輩～仕事編 12、おしえて！先輩～仕事編 13、おしえて！先輩～大学編 5、みる劇場・手話単語編（「みる」③）、みる劇場・手話単語編（「みる」④）、みる劇場・手話単語編（「きく」①）	6	6
その他	防犯シリーズ「詐欺について」、「ロマンス詐欺について」	2	2
教材等 (配信含)	令和 6 年度神奈川県手話通訳者養成講習会「通訳 I」受講者選考試験問題	2	2
	令和 6 年度神奈川県要約筆記者養成講習会教材	1	1
	令和 6 年度神奈川県手話通訳者新人研修会	1	1
	令和 6 年度本部手話通訳者研修会	4	4
	令和 6 年度神奈川県要約筆記者認定試験	2	2
	令和 6 年度神奈川県盲ろう者通訳・介助員現任研修会	3	3
合 計		79	118

(2) ビデオライブラリー

ロビーに、自主制作作品、寄贈・購入作品、字幕ライブラリー共同事業作品等の DVD ケースを配架し、希望番組の貸し出しを行った。貸し出しは登録制とし、登録者に 1 回 3 本まで、15 日間の貸し出しを行った。

ア ビデオライブラリー保有本数

区 分	内 訳		計		
令和 6 年度 新作ビデオ	新作ビデオ（20 タイトル）		59 本	59 本	122 本
	字幕ビデオ ライブラリー 厚生労働省 委託作品等 （無償分）	厚生労働省委託事業 （6 タイトル）	12 本	28 本	
		NHK厚生文化 事業団事業 （7 タイトル）	14 本		
		普及事業作品 （2 タイトル）	2 本		
	寄贈・購入ビデオ（34 タイトル）		35 本	35 本	
既存ビデオ	令和 5 年度末保有ビデオ		2,484 本	2,476 本	2,476 本
	廃棄ビデオ		8 本		
令和 6 年度末保有本数合計					2,598 本

イ 利用登録者数

区 分	登録者数
聴覚障がい者	1,059 人
手話学習者等	3,019 人
団 体	88 団体
合 計	4,078 人 88 団体

ウ 利用本数

区 分	利用数
自主制作	1,327 本
共同事業	120 本
寄贈・購入	260 本
資 料	116 冊
合 計	1,707 本 116 冊



手話語り「少林寺拳法 その①」



情報動画「『夏休み』はなぜあるの？」

エ 利用者数

区 分	人数等
聴覚障がい者	80 人
手話学習者等	717 人
団 体	9 団体
合 計	797 人 9 団体



目で聴くテレビ「ご当地検定」

(3) ストリーミング配信

ホームページから、インターネットによる、手話動画配信を行った。方式はストリーミング配信で、自主企画番組を発信した。

番組は、日常生活に必要な情報等を幅広く配信することで配信本数・動画へのアクセス数の拡大に努めた。

「手話語り」は、聴覚障がい当事者間の情報交換や聴覚障がい理解への普及啓発を目的に、出演者（聴覚障がい者）の経験や思いを手話で自由に語っていただく番組。また、出演者の手話の記録、保存にも役立てている。

「生活関連情報」は、手話を主な言語として日常生活を営む聴覚障がい者に、手話による情報発信、情報提供を行うことを目的に、社会での話題などを取り上げている番組。

「啓発動画」は、聴覚障がい児者についての理解を、県民に啓発することを目的にした番組。「国際手話について」、「手話言語の国際デー」等を取り上げ、視聴しやすさを考慮し、1タイトル、5分から10分程度の番組として制作、配信した。

「手話普及等動画」は、聴覚障がい児等が手話に親しみ、表現の豊かさや魅力に触れる機会とするとともに、県民にも広く手話への興味、関心を高めることを目的に、日本語の意味と手話表現を分かりやすく伝えた「みる劇場～手話単語編～」と、社会生活を営む聴覚障がい者のエンパワメントを促し若年層の聴覚障がい者が抱く将来への不安の解消や指針の参考にすることを目的に社会で活躍する聴覚障がい者にスポットをあてた「おしえて！先輩」を制作、配信した。

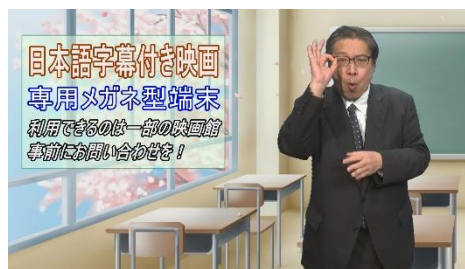
ア 配信番組数

配信番組区分	配信本数
神奈川県聴覚障害者福祉センターガイドテープ	1 本
手話語り	120 本
生活関連情報動画	267 本
啓発動画	30 本
手話普及等動画	39 本
センターからのお知らせ等	21 本

イ ホームページからの動画配信アクセス件数 14,816 件



「おしえて！先輩～大学編 5～」



啓発動画「日本語字幕付き映画」

(4) 聴覚障害者情報受信装置の配置及び視聴

障害者総合支援法地域生活支援事業の日常生活用具、聴覚障害者用情報受信装置対象機器である「アイドラゴン 4」をロビーに設置した。

認定特定非営利活動法人障害者放送通信機構が制作、配信している、手話と字幕番組「目で聴くテレビ」及び手話、字幕配信番組といった聴覚障がい者用番組を、インターネット回線を通して視聴することを可能とした。

(5) 認定特定非営利活動法人障害者放送通信機構への協力

認定特定非営利活動法人障害者放送通信機構が制作する「目で聴くテレビ」の番組充実等への協力を行った。

ア 提供番組 「ご当地検定（神奈川県）」〔放送日：令和 7 年 3 月 11 日（火）〕

イ スタジオ貸し出し 6 件

(6) 撮影・編集協力

関係団体等の撮影、編集に協力した。

ア 手話通訳者養成講座用 DVD 教材作成

イ パブリックコメント

(7) 社会福祉法人神奈川聴覚障害者総合福祉協会手話映像制作委員会

手話を主な言語として日常生活及び社会生活を営む聴覚障がい者に、手話による情報発信・情報提供を行うに際し、より適切な手話映像制作を行うために、聴覚障がい当事者からの意見を聞くための「手話映像制作委員会」を書面で実施した。

回 数 1 回

4 講座等

聴覚障がい者への情報提供の一環として、次のとおり講座を開催した。

聴覚障がい者に関わる情報や日常生活に必要な情報などを取り上げ、教養を高め、日常生活での活用、アイデンティティの確立等を支援する教養講座では、各方面で活躍しているろう者を招いて講演会を2回開催した。

ろうあ者相談等から日常的な課題を把握し、社会生活を営んでいくうえで必要な情報提供を行う「社会生活力講座」を日常生活情報、ICT活用をそれぞれ5回シリーズで、合わせて10回実施した。基本的には直接手話でコミュニケーションを図れる講師を選定しているが、必要な情報提供をしていくために、内容を重視した講師の選定を行った。

自らの意思を他者に伝える経験、他者の意思を理解する経験する場として「おしゃべりサロン」（単発）を開催。利用者の利便を考慮した地域の開催では、公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会や地域の手話通訳者及び、地域の行政の方々の協力を得、高齢聴覚障がい者の緊急時の対応も視野に入れ、情報交換の場とした。

現役世代の難聴者等が日常生活、就業、就学などでの悩みや思いなどを、同年代の難聴者と語り合うための「難聴者サロン」（単発）を実施し、特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協会の協力を得た。

移動教室、職業技術研修は、公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会へ委託し実施した。

また、聴覚障がい者向けの情報機器の展示及び貸し出しを行った。

（1）講 座

講 座 名	講 師 等	期 日	定員	受講者数
教養講座（参集型） 「Yes! Deaf Can!」 ーろう者でもできる！ド ミニカ共和国で成し遂げ たことー	一般社団法人撫子寄合 理事代表 廣瀬 芽里 氏	令 6.6.15	80 人	49 人
教養講座（参集型） 「世界中の障害者のため に頑張りたい」 ～国連障害者権利委員と してのこれから～	弁護士 田門 浩 氏	令 6.10.12	80 人	67 人
おしゃべりサロン【単発】 （参集型）	資生堂ジャパン株式会社 邊見 千絵 氏 谷岡 加奈子 氏	令 6.5.23	10 人	10 人

おしゃべりサロン【単発】 (参集型) ＜会場＞小田原市民交流 センターUMECO	神奈川県聴覚障害者福祉セン ター 非常勤職員 湊 里香 主 事 佐藤 育子 非常勤職員 大谷 秀子	令 6.9.27	10 人	11 人
おしゃべりサロン【単発】 (参集型) ＜会場＞ 二宮町民センター	神奈川県聴覚障害者福祉セン ター 施設事業課長 行谷 敦子 非常勤職員 湊 里香	令 6.11.7	10 人	15 人
おしゃべりサロン【単発】 (参集型)	神奈川県聴覚障害者福祉セン ター 非常勤職員 湊 里香	令 7.2.8	10 人	14 人
難聴者サロン【単発】 (参集型)	特定非営利活動法人 神奈川県中途失聴・難聴者協会 副理事長 野田あやか 氏 会 員 古川 実利 氏	令 6.6.23	20 人	11 人
難聴者サロン【単発】 (参集型)	特定非営利活動法人 神奈川県中途失聴・難聴者協会 副理事長 野田あやか 氏 会 員 古川 実利 氏	令 6.9.8	20 人	10 人
難聴者サロン【単発】 (参集型)	特定非営利活動法人 神奈川県中途失聴・難聴者協会 副理事長 野田あやか 氏 会 員 古川 実利 氏	令 7.1.19	20 人	16 人
社会生活力講座 (日常生活情報) (参集型)	「消費生活センターって、ど んなところ？悪徳商法の手口 と対処法」 神奈川県消費生活出前講座 消費生活専門相談員 澤谷 紀子 氏	令 6.4.13	10 人	22 人
	「ココロとからだをリフレッ シュする体操 無理なくでき るストレッチ」 ストレッチインストラクター 青柳 彩子 氏	令 6.5.11		
	「みなさんの元気を支えま す！地域包括支援センターっ て、どんなところ？」 鶴巻地域高齢者支援センター 社会福祉士・介護支援専門員 斉藤 健一 氏	令 6.6.1		

	「災害時、助かるために必要なことは？」 藤沢市防災安全部危機管理課 桑原 裕史 氏 野口 英俊 氏	令 6.7.27		
	「歯のメンテナンス」 高橋歯科クリニック 院長 高橋 恭彦 氏	令 6.8.3		
社会生活力講座 (ICT 活用) (参集型)	「スマホで鉄道に関する障害者割引をしてみよう」 特定非営利活動法人インフォメーションギャップバスター IT 担当 山口タケシ 氏	令 6.10.5	10 人	19 人
	「電話リレーサービスを実際に体験してみよう」 特定非営利活動法人インフォメーションギャップバスター IT 担当 三原 毅 氏	令 6.11.2		
	「マイナンバーカードの便利なこと、メリットを知ろう」 特定非営利活動法人インフォメーションギャップバスター IT 担当 山口タケシ 氏	令 6.11.30		
	「特殊詐欺について 詐欺にはいろいろあるけど、どんな詐欺があるか知ろう」 神奈川県藤沢警察署地域課捜査指導班 警部補 中野 充 氏	令 7.1.11		
	「特殊詐欺（闇バイト）について」 神奈川県藤沢警察署地域課捜査指導班 警部補 中野 充 氏	令 7.2.8		

移動教室【単発】(参集型) ＜会場＞神奈川県聴覚障害者福祉センター (藤沢市)	「ハンドケアセラピー体験」 認知症予防ハンドケアアドバイザー認定講座修了 湊 里香 氏	令 6.6.4	15 人	18 人
移動教室【単発】(参集型) ＜会場＞ 秦野市堀川公民館 (秦野市)	「秦野市の歴史を学ぶ」 秦野市生涯学習課 職 員 横山 諒人 氏	令 6.10.20	120 人	32 人
移動教室【単発】(参集型) ＜会場＞ 海老名市総合福祉会館 (海老名市)	「インターネット詐欺の防止について」 筑波技術大学 准教授 井上 正之 氏	令 6.10.26	80 人	41 人
移動教室【単発】(参集型) ＜会場＞ 横須賀市立総合福祉会館 (横須賀市)	「デフリンピックについて」 日本ろう者ライフル射撃協会 会 長 桂 玲子 氏	令 6.12.1	60 人	16 人
移動教室【単発】(参集型) ＜会場＞ 平塚市勤労会館 (平塚市)	「悪徳商法最新事情!!」 平塚市市民部協働推進課 消費生活相談員 原 園 信夫 氏 鳥海 薫 氏	令 6.12.1	30 人	21 人
移動教室【単発】(参集型) ＜会場＞ 相模原市民会館 (相模原市)	「世界のろう者四方山話と国際手話～外国人のろう者たちと交流～」 八王子市聴覚障害者協会 会 長 宮本 一郎 氏	令 7.1.25	40 人	26 人
移動教室【単発】(参集型) ＜会場＞ 藤沢市役所分庁舎 (藤沢市)	「コーダがやっている、手話で話せる接骨院」 湘南 Sunny 接骨院 島野 裕史 氏	令 7.2.9	80 人	46 人

職業技術研修 パソコン操作技術研修 【単発】	(オンライン型) 公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会 文化部パソコンクラブ 講 師 佐藤 浩幸 氏	令 6.6.6	20 人	4 人
		令 6.7.4	20 人	6 人
		令 6.8.1	20 人	7 人
		令 6.9.5	20 人	6 人
		令 6.10.3	20 人	5 人
		令 6.11.7	20 人	4 人
		令 6.12.5	20 人	6 人
		令 7.1.9	20 人	6 人
		令 7.2.6	20 人	5 人
		令 7.3.6	20 人	3 人
	(参集型) 三浦半島パソコンサポートネット 木曾 利修 氏 山田 陽平 氏 佐藤 副巳 氏 <会場> 横須賀市立総合福祉会館	令 6.10.24	10 人	1 人
		令 6.11.14	10 人	3 人
		令 6.11.28	10 人	4 人
		令 6.12.12	10 人	3 人
		令 6.12.26	10 人	2 人
		令 7.1.9	10 人	2 人
		令 7.1.23	10 人	3 人
		令 7.2.13	10 人	3 人
職業技術研修 スマートフォン操作技術 研修【単発】(参集型) <会場> 神奈川県聴覚障害者福祉 センター (藤沢市)	特定非営利活動法人 IT サロン藤沢 青木 知恵子 氏 山口 高 氏	令 6.6.11	15 人	10 人
		令 6.7.9	15 人	8 人
		令 6.9.10	15 人	7 人
		令 6.10.8	15 人	6 人
		令 6.11.12	15 人	7 人
		令 7.1.14	15 人	8 人
職業技術研修 理容研修 【単発】(参集型) <会場> 神奈川県聴覚障害者福祉 センター (藤沢市)	ヘアーサロン YOH 佐藤 洋二 氏	令 6.9.3	10 人	5 人

※ 社会生活力講座の延参加者数は、日常生活情報：66 人、ICT 活用：48 人。

(2) 聴覚障がい者向け情報機器の展示及び貸し出し

聴覚障がい者の日常生活の利便性向上のために、聴覚障害者屋内信号装置等の各種の情報機器をロビーに展示するとともに、貸し出しを行った。

ア 聴覚障がい者向け情報機器の展示

展示機器台数 11 機種 12 台

イ 聴覚障がい者向け情報機器の貸し出し

貸し出し件数 50 件



知らせる君



振動式電波時計

5 手話通訳者・要約筆記者の養成、研修及び認定試験

(1) 神奈川県手話通訳者養成講習会

厚生労働省手話通訳者養成カリキュラムに準じて開催した。

手話通訳者として必要な知識に関する講義及び手話通訳技術（表現・読み取り）を習得するための養成コースを、【通訳Ⅰ】、【通訳Ⅱ・Ⅲ】に分けて実施した。

【通訳Ⅰ】は、国の基本課程到達目標である、「対象の聴覚障害者の理解を確認しながらであれば手話通訳が可能なレベル。申請手続き等手話以外のコミュニケーション手段が付随する場面で通訳が可能なレベル」の達成に努めている。テキストは社会福祉法人全国手話研修センター発行の「手話通訳Ⅰ」を使用し、カリキュラムは、テキストの1講座を2時間で1回とし、実技講習64時間（32回）、講義8時間（4回）の、合計72時間（36回）としている。実技講習は聴覚障がい者講師、手話通訳者講師の2人とし、講義については、講義内容に応じて聴覚障がい者、手話通訳者およびその他専門の者で行うこととした。

【通訳Ⅱ・Ⅲ】は、国の応用課程達成目標「一部の難しい内容は聴覚障害者の理解の確認が必要であるが、日常場面の手話通訳は基本的に可能なレベル」及び実践課程到達目標「聴覚障害者の理解力に応じた手話通訳が可能なレベル」の達成に努めている。テキストは社会福祉法人全国手話研修センター発行の「手話通訳Ⅱ」、「手話通訳Ⅲ」を使用し、カリキュラムは、テキストの1講座を2時間で1回とし、実技講習80時間（40回）、講義11時間（6回・一部講義は1回1時間）の、合計91時間（46回）としている。実技講習は、聴覚障がい者講師、手話通訳者講師の2人とし、講義については、講義内容に応じて聴覚障がい者、手話通訳者、その他専門の者で行うこととした。

神奈川県手話通訳者養成コースカリキュラム構成

区 分	実技講習	講義講習	計
通訳Ⅰ	64時間（32回）	8時間（4回）	72時間（36回）
通訳Ⅱ・Ⅲ	80時間（40回）	11時間（6回）	91時間（46回）
計	144時間（72回）	19時間（10回）	163時間（82回）

※「通訳Ⅱ・Ⅲ」の講義「手話通訳者の健康管理」はテキストに合わせて1時間。

【通訳Ⅰ】受講者選考試験は、県域（政令市、中核市を除く県内）に在住する満18歳以上の者で、市町村での厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラム修了者または手話サークル等での手話学習経験があり、手話で聴覚障がい者と日常会話ができ、県および市町村で手話通訳活動を希望する者を対象とし、手話の読み取り試験、面接試験を実施することとした。試験内容については、厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラムの養成目標「聴覚障害、聴覚障害者の生活及び関連する福祉制度等についての理解と認識を深めるとともに、手話で日常会話を行うに必要な手話語彙及び手話表現技術を習得する。」を踏まえ、基礎課程の到達目標である、「相手の手話が理解でき、特定の聴覚障害者とならば、

手話で日常会話が可能なレベル」を基準に、公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会、神奈川県手話通訳者協会と協議を行うこととした。

【通訳Ⅱ・Ⅲ】受講者選考試験については、県域（政令市、中核市を除く県内）に在住する満18歳以上の者で、厚生労働省手話通訳者養成カリキュラム対応「手話通訳Ⅰ」修了者（修了見込者を含む）、神奈川県域での手話通訳活動を希望する者（資格取得後、県及び居住の市町村に登録しての手話通訳活動を行う）を対象に、聞き取り手話通訳試験を実施することとした。試験内容については公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会、神奈川県手話通訳者協会と協議を行うこととした。

厚生労働省手話通訳者養成カリキュラム修了の見極め試験である、手話通訳者全国統一試験を実施した。今までの【通訳Ⅱ・Ⅲ】修了者および他地域での厚生労働省手話通訳者養成カリキュラム修了者を対象とした。

神奈川県手話通訳者として認定するための見極め試験である神奈川県手話通訳者認定試験（小論文・面接）を実施した。その合格者は、神奈川県の手話通訳者として必要な知識を学ぶための合格者研修の受講により、神奈川県の手話通訳者として認定された。

実施にあたっては、公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会及び神奈川県手話通訳者協会との協議を行いその協力を得るとともに、認定試験等については、神奈川県手話通訳者試験委員会にて協議を行い実施した。

ア 養成コース

【通訳Ⅰ】、【通訳Ⅱ・Ⅲ】の2コースを実施した。

養成コース名	期 間	回数	定員	申込者数	受講者数	修了者数	延受講者数
令和5年度開始 【通訳Ⅰ】	令 6.4.9～令 6.11.12 (全 36 回のうち、 第 9 回～36 回)	28 回 (参集：27 回) (OL：1 回)	20 人	71 人	13 人	12 人	332 人
令和6年度開始 【通訳Ⅰ】	令 7.1.29～令 7.3.26 (全 36 回のうち、 第 1 回～7 回)	7 回 (参集：7 回)	20 人	70 人	16 人	16 人	108 人
令和5年度開始 【通訳Ⅱ・Ⅲ】	令 6.4.3～令 6.12.4 (全 46 回のうち、 第 16 回～第 46 回)	31 回 (参集：31 回)	20 人	11 人	11 人	11 人	331 人
令和6年度開始 【通訳Ⅱ・Ⅲ】	令 6.12.3～令 7.3.25 (全 46 回のうち、 第 1 回～第 15 回)	15 回 (参集：14 回) (参集・OL 併用：1 回)	20 人	12 人	11 人	11 人	164 人

なお、講師が体調不良のため別日に撮影しオンデマンド配信で対応、およびウイルス性疾患のため安全を考慮し講師がオンライン（Zoom）で指導したケースもあった。

※「OL」は、オンラインでの実施。

※ 令和 5 年度開始【通訳Ⅰ】

- ・申込者数は、令和 5 年度実施の【通訳Ⅰ】受講者選考試験「手話の読み取り試験」受験者数。
- ・定員には、相模原市、横須賀市を含む。
- ・相模原市、横須賀市受講者を含めた総延受講者数は 495 人。
- ・相模原市、横須賀市在住者を含めた総申込者数は 82 人、総受講者数は 19 人、総修了者数は 18 人。

※ 令和 6 年度開始【通訳Ⅰ】

- ・申込者数は、令和 6 年度実施の【通訳Ⅰ】受講者選考試験「手話の読み取り試験」受験者数。
- ・定員には、相模原市、横須賀市を含む。
- ・修了者数は、第 7 回までの修了者数。
- ・相模原市、横須賀市在住者を含めた総延受講者数は 122 人。
- ・相模原市、横須賀市在住者を含めた総申込者数は 84 人。総受講者数は 18 人、総修了者数は 18 人。

※ 令和 5 年度開始【通訳Ⅱ・Ⅲ】

- ・申込者数は、令和 5 年度実施の【通訳Ⅱ・Ⅲ】受講者選考試験「聞き取り手話表現試験」受験者数。
- ・定員には、相模原市、横須賀市を含む。
- ・相模原市、横須賀市在住者を含めた総延受講者は 475 人。
- ・相模原市、横須賀市在住者を含めた総申込者数は 16 人、総受講者数は 16 人、総修了者数は 16 人。

※ 令和 6 年度開始【通訳Ⅱ・Ⅲ】

- ・申込者数は、令和 6 年度実施の【通訳Ⅱ・Ⅲ】受講者選考試験「聞き取り手話表現試験」受験者数。
- ・定員には、相模原市、横須賀市を含む。
- ・修了者数は、第 15 回までの修了者数。
- ・相模原市、横須賀市在住者を含めた総延受講者数は 235 人。
- ・相模原市、横須賀市在住者を含めた総申込者数は 19 人、総受講者数は 16 人、総修了者数は 16 人。

イ 試 験

【通訳Ⅰ】および【通訳Ⅱ・Ⅲ】受講者を選考するため、【通訳Ⅰ】の選考試験においては手話の読み取り試験および面接試験を実施した。また【通訳Ⅱ・Ⅲ】選考試験において、聞き取り試験を実施した。

神奈川県の手話通訳者を認定するため、厚生労働省手話通訳者養成カリキュラムを修了した者を対象に令和6年度手話通訳者全国統一試験を実施した。また手話通訳者全国統一試験合格者および手話通訳士を対象に、令和7年3月に神奈川県手話通訳者認定試験（小論文・認定試験）を実施した。

なお、神奈川県手話通訳者認定試験においては、川崎市在住者の手話通訳者全国統一試験合格者等を受け入れている。

試 験	日 程	申込者	受験者	合格者
令和6年度開始【通訳Ⅰ】 手話の読み取り試験	令 6.12.21	70 人	68 人	24 人
令和6年度開始【通訳Ⅰ】 面接試験	令 7.1.18	24 人	23 人	16 人
令和6年度開始 【通訳Ⅱ・Ⅲ】聞き取り試験	令 6.11.19	12 人	12 人	11 人
2024（令和6）年度 手話通訳者全国統一試験	令 6.12.7	26 人	24 人	3 人
令和6年度 神奈川県手話通訳者認定試験	令 7.3.22	7 人	7 人	6 人

- ※ 令和6年度開始【通訳Ⅰ】手話の読み取り試験の、相模原市、横須賀市を含めた、総申込者数は84人、総受験者数は81人、総合格者数は29人。
- ※ 令和6年度開始【通訳Ⅰ】面接試験の、相模原市、横須賀市を含めた、総申込者数は29人、総受験者数は28人、総合格者数は18人。
- ※ 令和6年度開始【通訳Ⅱ・Ⅲ】聞き取り試験の、相模原市、横須賀市を含めた、総申込者数は19人、総受験者数は19人、総合格者数は16人。
- ※ 2024（令和6）年度手話通訳者全国統一試験の、相模原市、横須賀市、横浜市を含めた、総申込者数は37人、総受験者数は35人、総合格者数は6人。
- ※ 令和6年度神奈川県手話通訳者認定試験の、相模原市、横須賀市、横浜市、川崎市を含めた、総申込者数は15人、総受験者数は14人、総合格者数は11人。

ウ 合格者研修

神奈川県手話通訳者認定試験合格者を対象に、合格者研修を行った。

講 義 名	日 程	受講者数
聴覚障害者が求める手話通訳者像	令 7.3.29	6 人
神奈川県の手話通訳者として		
県の手話通訳制度および登録と制度について		

※ 延受講者数は 18 人。

※ 相模原市、横須賀市、横浜市、川崎市を含む総受講者数は 11 人。総延受講人数は 33 人。

エ 認定式

県知事名による手話通訳者認定証を交付した。

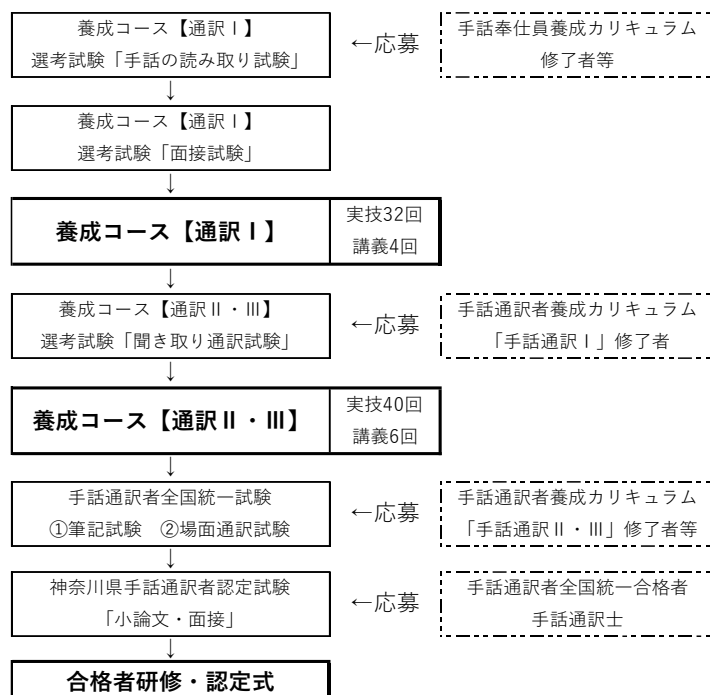
認定式	認定者数
令 7.3.29	6 人

※ 相模原市、横須賀市、横浜市、川崎市を含めた総認定者数は 11 人。

(備考) 認定手話通訳者数 (地域別)

市町村名	各認定者数	認定者数	総認定者数
平塚市	1 人	6 人	11 人
藤沢市	1 人		
小田原市	1 人		
茅ヶ崎市	1 人		
海老名市	1 人		
二宮町	1 人		
横浜市	1 人	1 人	
川崎市	3 人	3 人	
相模原市	1 人	1 人	

オ 神奈川県手話通訳者養成講習会及び認定の流れ



カ 神奈川県手話通訳者試験委員会

実施日等	主な協議内容	参加人数
令 6.8.10	神奈川県手話通訳者養成講習会の実施 及び各試験についての協議等	5 人
令 6.9.21		5 人
令 6.10.12		5 人
令 7.2.22		5 人

- ・ 構成団体 公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会
神奈川県手話通訳者協会
社会福祉法人神奈川県聴覚障害者総合福祉協会
- ・ 事務局 当センター

(2) 神奈川県要約筆記者養成講習会

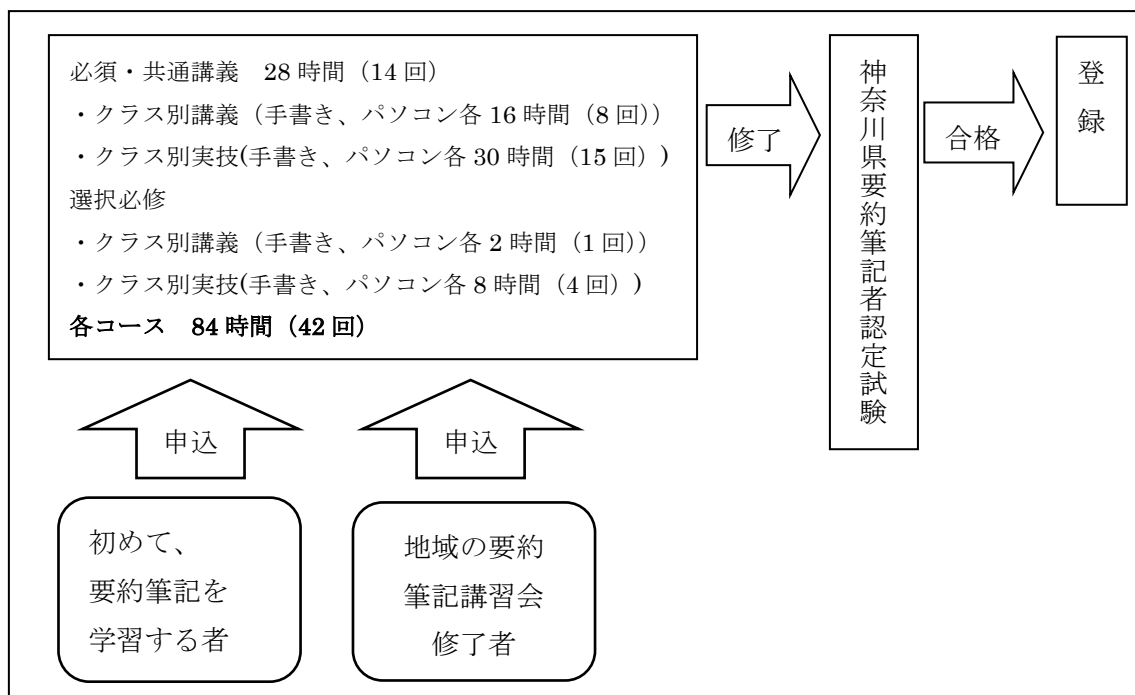
厚生労働省要約筆記者養成カリキュラムに準じて開催した。

手書き要約筆記者、パソコン要約筆記者の養成を行い、国の養成目標「聴覚障害、聴覚障害者、とりわけ中途失聴・難聴者の生活及び関連する福祉制度や権利擁護、対人援助等についての理解と認識を深めるとともに、難聴者等の多様なニーズに対応できる要約筆記を行うに必要な知識及び技術を習得する。」の達成に努めた。

カリキュラムは、2 時間を 1 回とした。必修科目は、聴覚障がい、要約筆記、社会福祉、日本語等の基礎的な知識等の習得を図るための、手書き要約筆記、パソコン要約筆記両クラス合同の共通講義（28 時間：14 回）、手書き要約筆記、パソコン要約筆記の各クラスに特化した技術、知識の習得、定着を図るクラス別講義（各 16 時間：各 8 回）、クラス別実技（各 30 時間：各 15 回）とした。選択必修科目は、手書き要約筆記に特化した「二人書きⅠ」、パソコン要約筆記に特化した「連係入力Ⅰ」のクラス別講義（各 2 時間：各 1 回）、手書き要約筆記に特化した「二人書きⅡ」等、パソコン要約筆記に特化した「連係入力Ⅱ」等のクラス別実技（各 8 時間：各 4 回）とした。

手書き要約筆記、パソコン要約筆記の両クラスとも、必修科目（74 時間：37 回）、選択必修科目（10 時間：5 回）の計 84 時間：42 回を受講することとした。

定員は、要約筆記初心者を対象とした募集では、手書き要約筆記クラス、パソコン要約筆記クラスとも各 13 人。地域の要約筆記講習会等修了者を対象とした募集では手書き要約筆記クラス、パソコン要約筆記クラスとも各 5 人とした。手書き要約筆記クラス、パソコン要約筆記クラスとも、定員の合計は各 18 人とし募集を行った。



また、地域の要約筆記講習会修了者は一定の講習を免除し、講習会の中から受講を認めた。

実施にあたっては、特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協会及び神奈川県要約筆記協会との協議を行い、その協力を得て行った。特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協会会員が実技アシスタントに加わるとともに、講習会を見学した。

神奈川県要約筆記者養成講習カリキュラム構成

区 分		講習時間（講習回数）
必修科目	共通講義	28 時間（14 回）
	クラス別講義	16 時間（8 回）
	クラス別実技	30 時間（15 回）
選択必修科目	クラス別講義	2 時間（1 回）
	クラス別実技	8 時間（4 回）
計		84 時間（42 回）

ア 養成講習会

（ア）期間等

期 間	クラス	時間	曜 日	受講者	修了者
令 6.4.19～令 7.1.24	パソコン	10:00～12:00	金曜日	18 人	16 人
	手書き	13:30～15:30	金曜日	17 人	12 人

※ ただし、共通講義は 10:00～12:00 または 13:30～15:30

※ 申込者は、手書き要約筆記クラス 18 人（うち 1 人は申込書不備により受講不可）、パソコン要約筆記クラス 23 人。

※ 延受講者は 1,174 人。延見学者は 350 人（うちオンラインでの見学者 40 人）。

（イ）共通講義

全講義を参集方式で実施した。見学者は、オンライン方式での見学も対応した。

回	期 日	テ ー マ	講 師
第 1 回	令 6.4.19	聴覚障害の基礎知識（1）	横浜国立大学教育人間科学部 名誉教授 中川 辰雄 氏
第 2 回	令 6.4.26	要約筆記の基礎知識 I（1）	特定非営利活動法人 神奈川県中途失聴・難聴者協会 副理事長 石川 美奈 氏
第 3 回	令 6.4.26	要約筆記の基礎知識 I（2）	神奈川県要約筆記協会 前会長 関根 陽子 氏

回	期 日	テ ー マ	講 師
第 9 回	令 6.6.14	対人援助 I (1)	特定非営利活動法人 神奈川県中途失聴・難聴者協会 副理事長 石川 美奈 氏
第 10 回	令 6.6.14	聴覚障害の基礎知識 (2)	特定非営利活動法人 神奈川県中途失聴・難聴者協会 副理事長 野田 あやか 氏
第 11 回	令 6.6.21	社会福祉の基礎知識 I (1)	弁護士 松田 峻 氏
第 12 回	令 6.6.21	話しことばの基礎知識 (1)	元世田谷福祉専門学校 手話通訳学科 非常勤講師 根岸 亜紀 氏
第 17 回	令 6.7.26	日本語の基礎知識 (1)	元鎌倉女子大学児童学部児童学科 准教授 齋木 信也 氏
第 18 回	令 6.7.26	日本語の基礎知識 (2)	元鎌倉女子大学児童学部児童学科 准教授 齋木 信也 氏
第 19 回	令 6.8.2	伝達の学習 I	しらかばこども家庭支援ステーション 副所長 小林 正稔 氏
第 20 回	令 6.8.2	対人援助 I (2)	桜美林大学健康福祉学群 准教授 谷内 孝行 氏
第 36 回	令 6.12.6	社会福祉の基礎知識 I (2)	神奈川県聴覚障害者福祉センター 常勤嘱託職員 安田 芳正
第 41 回	令 7.1.24	社会福祉の基礎知識 I (3)	特定非営利活動法人 神奈川県中途失聴・難聴者協会 理事長 森 友彦 氏 公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会 理 事 多賀谷 正子 氏
第 42 回	令 7.1.24	要約筆記者のあり方 I	神奈川県要約筆記協会 会 長 工藤 栄子 氏

(ウ) 要約筆記者養成講習会受講希望者事前説明会

次年度神奈川県要約筆記者養成講習会受講希望者を対象に、要約筆記、難聴等についての認識を深め、目的意識を持って講習会に臨むために開催した。

日 時 令和 7 年 3 月 26 日 (水) 13 : 30 ~ 15 : 30

方 法 参集方式

内 容

- ・神奈川県要約筆記者養成講習会の概要
- ・難聴について、難聴者体験
- ・要約筆記について、要約筆記体験

参加人数 29 人（手書き 12 人、パソコン 17 人）

(エ) 神奈川県要約筆記者養成委員会

実施日等	主な協議内容	参加人数
令 6.5.30（参集）	神奈川県要約筆記者養成講習会の実施 及び各試験についての協議等	5 人
令 6.9.5（参集）		5 人
令 6.12.5（参集）		5 人

- ・構成団体 特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協会
神奈川県要約筆記協会
社会福祉法人神奈川聴覚障害者総合福祉協会
- ・事務局 当センター

イ 認定試験

県及び市町村において、聴覚障がい者の意思疎通支援のための要約筆記者派遣を担う神奈川県認定要約筆記者（手書き要約筆記者、パソコン要約筆記者）として、必要な知識、技術を有しているかを審査することを目的に、神奈川県要約筆記者認定試験を行った。

試験は、学科試験と実技試験を行った。学科試験としては、要約筆記者として必要な基礎知識、専門知識の習得度を測定する共通学科試験、手書き要約筆記者またはパソコン要約筆記者として必要な専門知識の習得度を測定する専門学科試験を行った。実技試験としては、手書き要約筆記者またはパソコン要約筆記者として必要な個別の専門技術の習得度を測定する個別実技試験、手書き要約筆記者またはパソコン要約筆記者として必要なチームでの連携等の専門技術の習得度を測定するチーム実技試験を行った。

認定試験問題は、神奈川県要約筆記者認定試験問題作成委員会を設け、作成した。

実施にあたっては、特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協会、神奈川県要約筆記協会と協議を行った。

(ア) 試 験

令和 6 年度神奈川県要約筆記者養成講習会修了者等を対象に、試験を実施した。

試験名	実施日	申込人数	受験人数	合格者数
学科試験	令 7.2.7	30 人	29 人	29 人
手書き要約筆記実技試験	令 7.2.21	13 人	12 人	12 人
パソコン要約筆記実技試験	令 7.2.14	16 人	16 人	14 人

- ※ 手書き・パソコン同時受験者数は 2 人。
- ※ 相模原市、横須賀市を含めた総申込人数は延 41 人。
うち手書き受験者 19 人、パソコン受験者 22 人。
- ※ 相模原市、横須賀市を含めた総受験者数は延 39 人、
うち手書き受験者 17 人、パソコン受験者 22 人。
- ※ 相模原市、横須賀市を含めた総合格者数は延 32 人、
うち手書き受験者 14 人、パソコン受験者 18 人。

(イ) 認 定

学科試験及び実技試験の両試験に合格した者を、神奈川県要約筆記者認定試験合格者（手書き要約筆記者、パソコン要約筆記者）とし、神奈川県認定要約筆記者（手書き要約筆記者、パソコン要約筆記者）に認定した。

a 合格者数

区 分	合格人数
手書き要約筆記者	13 人
パソコン要約筆記者	14 人

- ※ 手書き要約筆記者は、相模原市合格者 1 人を含む総合格者数は 14 人。
- ※ パソコン要約筆記者は、相模原市合格者 3 人、横須賀市合格者 1 人を含む総合格者数は 18 人。
- ※ 相模原市、横須賀市を含めた総合格者数 32 人。

b 認定式

実施日	区 分	認定者数
令 7.3.28	手書き要約筆記者	13 人
	パソコン要約筆記者	14 人

- ※ 相模原市および横須賀市からの委託事業分を含めた総認定者数 32 人。

c 地域別神奈川県認定要約筆記者数（総認定者数）

(a) 手書き要約筆記者

市町村名	認定人数		
藤 沢 市	2 人	13 人	14 人
小田原市	1 人		
茅ヶ崎市	3 人		
厚 木 市	1 人		
伊勢原市	2 人		
海老名市	1 人		
座 間 市	1 人		
大 磯 町	1 人		

二 宮 町	1 人		
相模原市	1 人	1 人	

(b) パソコン要約筆記者

市町村名	認定人数		
平 塚 市	2 人	14 人	18 人
鎌 倉 市	3 人		
逗 子 市	1 人		
厚 木 市	2 人		
海老名市	3 人		
座 間 市	1 人		
綾 瀬 市	1 人		
寒 川 町	1 人		
横須賀市	1 人	1 人	
相模原市	3 人	3 人	

(ウ) 神奈川県要約筆記者認定試験問題作成委員会（すべて参集型）

実施日等	主な協議内容	参加人数
令 6.6.22	令和 6 年度神奈川県要約筆記者認定試験 問題の作成について	4 人
令 6.7.27		4 人
令 6.9.21		4 人
令 6.10.19		4 人
令 6.11.9		3 人
令 6.12.14		4 人
令 7.1.25		4 人

(3) 手話通訳者、要約筆記者の技術研修等

ア 手話通訳者研修

(ア) 手話通訳者研修会

手話通訳者の資質向上のために参集型による講義 2 回と実技 1 回の研修を行った。

市町村の派遣の中で医療関係が多く毎年のアンケートに医療に関する研修の開催を望む声が多いことから医療場面での通訳方法のロールプレイによる実技研修を行った。

講義研修では、令和 6 年 4 月から企業や事業所等の合理的配慮の義務化に伴い、社会に対して配慮を求めるにあたり、先ずは手話通訳者、聴覚障がい者が合理的配慮の認識を深める必要性から研修を企画した。

もうひとつは、全国的に日中活動ができる手話通訳者不足により特定の通訳者の負担が増加している現状を踏まえ、心身ともに健康な状態で通訳活動が続けられることを目的に研修を企画した。

期 日	テ ー マ	講師等	定 員	参加人数
令 6.7.6	実技研修 「医療場面における通訳方法」	手話通訳士 新中 理恵子 氏	70 人	79 人
令 6.10.22	講 義 「障害者差別解消法・合理的配慮 の求め方について」	弁護士、手話通訳士 聞こえないきょうだ いをもつ SODA の会 代表 藤木 和子 氏	70 人	41 人
令 7.3.11	講 義 「手話通訳者の健康とメンタル ヘルス」	東京手話通訳等 派遣センター センター長 森 せい子 氏	70 人	27 人

※ 延参加者数 147 人。

(イ) 手話通訳者技術研修会（委託先：神奈川県手話通訳者協会）

手話通訳者の技術向上のために、主に技術研修として、参集で 13 回行った。

その内、「読み取り」実技研修を 5 回開催した。実技研修の「聞き取り」は、3 回実施した。各実技研修は、公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会のいろいろな方々の協力を得ており、繰り返しグループワークで確認できる動画での読み取りや、各聴覚障がい者が求める手話通訳の表現を駆使して表現し合い、研鑽する効果的な研修となった。また、ロールプレイを使った、介護認定調査の情報保障についても、増加する高齢者への手話通訳場面の表現方法や、気づき、動き方などを学び振り返った。講義は継続して学んでいるデマンド・コントロール・スキーマ対人専門職としての手話通訳とし

て、手話通訳者の職業倫理を学び知識や技術の向上に努めた。

期 日	テ ー マ	講 師 等	定員	参加人数
令 6.6.16	実技研修 「聞き取りⅠ」	公益社団法人神奈川県聴覚障 害者協会会員	70 人	59 人
令 6.7.21	実技研修「聞き取りⅡ」 「テレビジョン放送にお ける手話通訳に必要な表 現技術の習得」	神奈川県手話通訳者協会会員	30 人	18 人
令 6.8.24	講 義 「要約筆記協会との合同 研修会」	神奈川県手話通訳者協会会員 神奈川県要約筆記協会会員	30 人	25 人
令 6.9.14	実技研修 「読み取りⅠ」	公益社団法人神奈川県聴覚障 害者協会会員	50 人	30 人
令 6.10.26	地域研修 実技研修 「読み取り」 茅ヶ崎会場	公益社団法人神奈川県聴覚障 害者協会会員	50 人	22 人
令 6.11.4	実技研修 「事例&ロールプレイ」	元神奈川県聴覚障害者福祉 センター施設長 本多 綾乃 氏	50 人	17 人
令 7.1.19	実技研修 「読み取りⅡ」	公益社団法人神奈川県聴覚障 害者協会会員	20 人	19 人
令 7.1.25	実技研修 「読み取りⅢ」	公益社団法人神奈川県聴覚障 害者協会会員	50 人	13 人
令 7.2.9	地域研修 実技研修 「読み取り」 秦野会場	公益社団法人神奈川県聴覚障 害者協会会員	50 人	21 人
令 7.2.15	実技研修 「認定調査等における情 報保障について」	一般社団法人日本手話通訳士 協会理事 愛知県・豊橋市登録手話通訳 者 本田 栄子 氏	50 人	33 人
令 7.2.23	講 義 「森の手話カフェってな に？お話を聞いてみよう」	流山市デフ協会及び手話サー クル	50 人	45 人

令 7.3.14	実技研修 「聞き取りⅢ」	公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会会員	50 人	24 人
令 7.3.16	講 義 「デマンドコントロール」	一般社団法人日本手話通訳士協会会員 高木 真知子 氏	50 人	17 人

※ 延参加者数 343 人

(ウ) 手話通訳者新人研修会

令和 5 年度神奈川県認定手話通訳者の研修（以下 1 年目研修）の対象者は 12 人、全 4 回の研修。令和 4 年度神奈川県認定手話通訳者の研修（以下 2 年目研修）の対象者は 10 人、全 2 回。計 6 回の研修を行った。

1 年目研修は、派遣現場を想定した模擬会議の実習を含め、手話通訳者としての動きや個々の課題を明らかにし、今後の研鑽につなげるための研修を行った。2 年目研修は、登録後の手話通訳活動を振り返り、個々の課題を検証するための研修を行った。

1 年目研修欠席者への対応は、映像を用いた実技研修 1 回（参集）をもって研修参加とした。

研修実施にあたっては、公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会、神奈川県手話通訳者協会と協議の上、協力を得て実施。打合せ会議は令和 6 年 4 月 13 日（土）に行った。

	回	期 日	テーマ	講師・アシスタント	参加人数
(1 年目研修)	1	令 6.5.18	現場に行く前の準備 ～通訳者としての心 構え～ (参集型)	公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会 会 員 高山 久子 氏 神奈川県手話通訳者協会 会 長 櫻井 いづみ 氏	12 人
	2	令 6.6.1	模擬会議場面実習 ～DVD 作成委員会・ 講師養成委員会打合 せ会議～ (参集型)	神奈川県手話通訳者協会 会 長 櫻井 いづみ 氏 アシスタント 公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会 会 員 高山 久子 氏 会 員 原 佐登美 氏 会 員 嵩 良美 氏 神奈川県手話通訳者協会 副会長 山本 恵三子 氏	12 人 〔欠席者 向け代替 研修 1 人 (参集) を含む〕
	3	令 6.9.7	現場終了後の気づき ～第 2 回模擬会議場 面を振り返って～ (参集型)	公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会 会 員 高山 久子 氏 神奈川県手話通訳者協会 会 長 櫻井 いづみ 氏	12 人

	4	令 6.11.9	報告書の書き方 (参集型)	神奈川県聴覚障害者福祉センター 施設事業係長 山本 隆志 本部事業課主事 杉本 晃康	12 人
(2年目研修)	5	令 7.1.19	登録後の振り返り ～通訳者に求められるスキルや役割の再 確認～ (参集型)	公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会 会 員 湊 里香 氏 神奈川県手話通訳者協会 副会長 山本 恵三子 氏	10 人
	6	令 7.2.9	実技研修 ～2年目の通訳者に 必要な技術～ (参集型)	公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会 会 員 湊 里香 氏 神奈川県手話通訳者協会 副会長 山本 恵三子 氏	10 人

※延参加者数 68 人

イ 要約筆記者研修

(ア) 要約筆記者研修会

登録要約筆記者を対象に、要約筆記者の資質向上のための研修会を行った。

期 日	テ ー マ	講 師	参加人数
令 6.11.17	手話勉強会での要約筆記、よりよくするために皆で話し合いましょう！	神奈川県要約筆記協会 副会長 井上 恭子 氏	36 人

(イ) 三者共催要約筆記者研修会

特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協会、神奈川県要約筆記協会及び当センターの三者で、要約筆記者の資質向上のための研修会を開催した。

参集だけでなく、オンライン会議ソフトでの同時配信も行なった。配信視聴による参加者で、登録更新研修として参加する者は終了後にレポートを提出することで講義研修参加とした。

期 日	テ ー マ	講 師	定員	参加人数
令 6.8.25	知っているようで実は知らない？防災のいろいろ	横浜市消防局警防部司令課 瀬戸 勇 氏	参集 60 人	88 人 参集：49 人 OL：39 人

※ オンラインには、定員を設けていない。

※ 「OL」は、オンライン。参加人数の「参集」、「OL」は、内数。

(ウ) 神奈川県要約筆記者技術研修会（委託先：神奈川県要約筆記協会）

登録要約筆記者を対象に要約筆記者の技術向上のため、主に技術向上のための研修を、参集で、単発で行った。

期 日	テ ー マ	講 師	定 員	参加人数
令 6.6.13	基礎編「チームワーク」(参集) (P C)	神奈川県要約筆記協会会員	16 人	25 人
令 6.6.20	基礎編「機材セッティング」 (参集)(手書き)	神奈川県要約筆記協会会員	16 人	20 人
令 6.8.1	人柄やニュアンスを伝える情報 保障を考える(1)(参集)(P C)	神奈川県要約筆記協会会員	16 人	19 人
令 6.8.1	人柄やニュアンスを伝える情報 保障を考える(2)(参集)(P C)	神奈川県要約筆記協会会員	16 人	19 人
令 6.9.5	現場の特徴に合わせた情報保障 の工夫(1)(参集)(手書き)	神奈川県要約筆記協会会員	16 人	14 人
令 6.9.12	現場の特徴に合わせた情報保障 の工夫(2)(参集)(手書き)	神奈川県要約筆記協会会員	16 人	14 人
令 6.11.21	オンラインを併用した情報保障 (1)(参集)(P C)	神奈川県要約筆記協会会員	16 人	12 人
令 6.11.28	オンラインを併用した情報保障 (2)(参集)(P C)	神奈川県要約筆記協会会員	16 人	11 人
令 7.1.16	今の自分を知ろう！(1)(参集) (手書き)	神奈川県要約筆記協会会員	16 人	10 人
令 7.1.23	今の自分を知ろう！(2)(参集) (手書き)	神奈川県要約筆記協会会員	16 人	8 人

※(手書き)は手書き要約筆記者対象。(P C)はパソコン要約筆記者対象。

※ 延参加人数 152 人。

(エ) 要約筆記者合格者技術研修会

神奈川県要約筆記者認定試験合格者を対象に 2 コース 4 回(手書き要約筆記クラス 2 回、パソコン要約筆記クラス 2 回)開催した。

各クラスとも、第 1 回は全体研修、第 2 回は現場実習を実施した。

実施にあたっては、特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協会及び神奈川県要約筆記協会の協力を得た。

a 手書き要約筆記（全2回。対象人数：19人）

回	期 日	テ ー マ	講 師	参加人数
1	令 6.4.25	派遣現場での対応方法 や注意点等について	神奈川県要約筆記協会 会 員 関根 陽子 氏	19 人
2	令 6.5.9	現場実習（特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協会・神奈川県要約筆記協会協力交流会）		

※ 延参加人数 36 人。

b パソコン要約筆記（全2回。対象人数：15人）

回	期 日	テ ー マ	講 師	参加人数
1	令 6.4.18	派遣現場での対応方法 や注意点等について	神奈川県要約筆記協会 会 員 西村 智佐子 氏	15 人
2	令 6.4.26	現場実習（令和6年度神奈川県要約筆記者養成講習会共通講義）		

※ 延参加人数 27 人。

(オ) 要約筆記者オンライン派遣勉強会

オンラインでの要約筆記者派遣について、派遣に必要な知識、技術を学び、オンライン派遣の担い手の拡大を図るとともに、学習プログラムの検討、実践を踏まえて、将来のオンライン派遣のための研修体系の確立のために、令和5年度から実施した。

オンライン派遣のためのインターネット接続、パソコン設定等は手書き要約筆記、パソコン要約筆記とも共通点が多いことから、オンライン派遣の概要を含めて、共通での講義として実施した。手書き要約筆記、パソコン要約筆記の実技はそれぞれで実施した。

期 日	内 容	講 師	参加人数
令 6.12.15	共通講義	神奈川県要約筆記協会 会 員 中野 潤子 氏	28 人
令 7.1.12	手書き要約筆記実技 （会場・拠点）	神奈川県要約筆記協会 会 員 岡本 和美 氏	9 人
令 7.2.8	パソコン要約筆記実技 （会場・拠点）	神奈川県要約筆記協会 会 員 中野 潤子 氏	16 人

令 7.2.15	パソコン要約筆記実技 (在宅)	神奈川県要約筆記協会 会 員 中野 潤子 氏	17 人
----------	--------------------	---------------------------	------

(カ) 神奈川県要約筆記者登録・派遣説明会

神奈川県要約筆記者認定試験合格者を対象に、登録手続きや派遣の内容、派遣の際の注意事項、登録更新のための研修会受講等の説明と質疑を実施した。

期 日	講 師	受講人数
令 7.3.28	神奈川県聴覚障害者福祉センター 施設事業課主事 田中 佑季 本部事業課非常勤職員 金森 美保	30 人

※ 対象人数：手書き要約筆記 14 人、パソコン要約筆記者 18 人

(キ) 要約筆記者指導者養成研修

厚生労働省要約筆記者養成カリキュラム通知を受けて実施された研修会に、対象者を推薦し、派遣することとした。

- a 推薦人数 1 人
- b 受講人数 1 人
- c 受講内容

受講コース名	期 間	受講人数
基礎研修コース：パソコンクラス (②、②－1、③は、オンライン型) (②－2、④は、参集型)	① 令 6.7.13～令 6.7.14 ②－1 令 6.8.31 ②－2 令 6.10.5～令 6.10.6 ③ 令 6.10.19～令 6.10.20 ④ 令 6.12.21～令 6.12.22	1 人

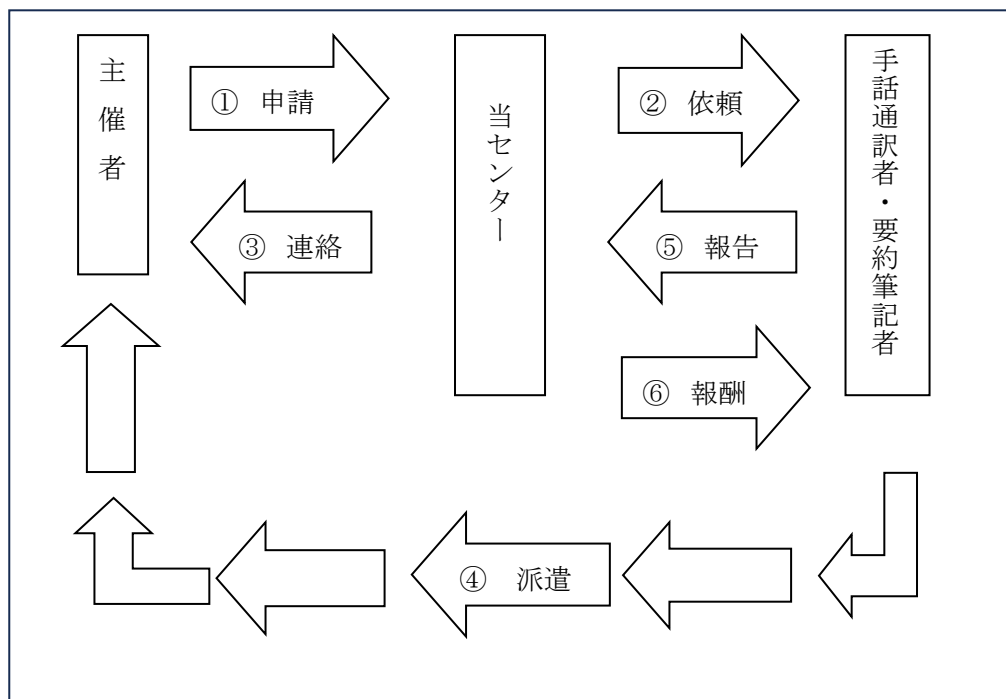
※ ②（第 2 クール）は台風接近のため、一部をオンライン型に変更して実施された。

※ ②－2 は調整の上、2 日間のうち 10 月 5 日をパソコンクラス、10 月 6 日を手書きクラスとして、参集型で実施された。

6 手話通訳者・要約筆記者の派遣等

県域を活動範囲とする聴覚障がい者団体、身体障がい者団体、神奈川県福祉部障害福祉課、障害サービス課主催の大会及び会議等に派遣した。

また、オンラインでの手話通訳者、要約筆記者の派遣も行った。



(1) 派遣等

ア 登録者数

(ア) 手話通訳者	208 人	(内、手話通訳士 107 人)
		(内、県域 170 人 川崎市 38 人)
(イ) 要約筆記者	185 人	{ 内 手書きのみ 71 人 パソコンのみ 82 人 手書き、パソコン 32 人

イ 手話通訳者派遣

区 分	派遣件数	派遣人数
団体派遣	167 件	375 人
主催事業	78 件	134 人
合 計	245 件	509 人

区 分		時間数	合 計
総派遣時間	団体派遣	1,330 時間	1,671 時間
	主催事業	341 時間	

※ 総時間数は、手話通訳者の年間派遣時間の合計時間。ただし、合計時間の 30 分未満は切り下げ、30 分以上は切り上げて表記。

区 分		人 数	合 計
総利用者数	団体派遣	167 人	245 人
	主催事業	78 人	

※ 総利用者数は、団体、機関への派遣のため 1 派遣申請を 1 人として表記。

(ア) 団体派遣

県域を活動範囲とする聴覚障がい者団体、身体障がい者団体、神奈川県福祉部障害福祉課等主催の会議等に派遣した。

(イ) 主催事業

当センター主催の各種事業に派遣した。

(ウ) キャンセル数

区 分	件数	人数
未手配及び調整中	0 件	0 人
手配済み	14 件	26 人
派遣者不足	0 件	0 人
計	14 件	26 人

(エ) オンラインでの手話通訳派遣件数・人数

区 分	団体派遣		主催事業		合 計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数
会場でのオンライン通訳	13 件	26 人	18 件	36 人	31 件	62 人
拠点でのオンライン通訳	3 件	6 人	0 件	0 人	3 件	6 人
自宅でのオンライン通訳	0 件	0 人	0 件	0 人	0 件	0 人
合 計	16 件	32 人	18 件	36 人	34 件	68 人

※「拠点」は、主催者または派遣元が指定した場所。

ウ 要約筆記者派遣

区 分	派遣件数			派遣人数		
	手書き	パソコン	計	手書き	パソコン	計
団体派遣	46 件	54 件	100 件	170 人	207 人	377 人
主催事業	57 件	83 件	140 件	187 人	333 人	520 人
合 計	103 件	137 件	240 件	357 人	540 人	897 人

区 分	総派遣時間			総利用者数		
	手書き	パソコン	計	手書き	パソコン	計
団体派遣	565 時間	800 時間	1,365 時間	46 人	54 人	100 人
主催事業	526 時間	954 時間	1,480 時間	57 人	83 人	140 人
合 計	1,091 時間	1,754 時間	2,845 時間	103 人	137 人	240 人

※ 総時間数は、要約筆記者の年間派遣時間の合計時間。ただし、合計時間の 30 分未満は切り下げ、30 分以上は切り上げて表記。

※ 総利用者数は、団体、機関への派遣のため 1 派遣申請を 1 人として表記。

(ア) 団体派遣

県域を活動範囲とする聴覚障がい者団体、身体障がい者団体、神奈川県福祉部障害福祉課等主催の大会及び会議等に派遣した。

(イ) 主催事業

当センター主催の各種事業に派遣した。

(ウ) キャンセル

区 分	件数	人数
未手配及び調整中	1 件	4 人
手配済み	0 件	0 人
派遣者不足	0 件	0 人
計	1 件	4 人

(エ) オンラインでの要約筆記者派遣件数・人数

区 分	団体派遣				主催事業				合 計			
	手書き		パソコン		手書き		パソコン		手書き		パソコン	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
会 場	0 件	0 人	2 件	10 人	7 件	28 人	20 件	80 人	7 件	28 人	22 件	90 人
拠 点	0 件	0 人	2 件	8 人	0 件	0 人	3 件	12 人	0 件	0 人	5 件	20 人
在 宅	0 件	0 人	6 件	24 人	0 件	0 人	0 件	0 人	0 件	0 人	6 件	24 人
合 計	0 件	0 人	10 件	42 人	7 件	28 人	23 件	92 人	7 件	28 人	33 件	134 人

※ 総合計は、40 件、162 人。

- ※ 「会場」とは、行事等を行なう会場へ直接赴き要約筆記を実施すること。
- ※ 「拠点」とは、会場がオンラインシステムのみで、主催者または派遣元の用意する情報保障者の部屋等へ赴き要約筆記を実施すること。
- ※ 「在宅」とは、要約筆記者が各々の自宅からインターネット接続を介してネットワークを組み、要約筆記を実施すること。

エ 広域派遣に関する市町村との調整

県内外からの市町村等からの広域派遣における問い合わせについて、必要な調整、支援を行った。

(ア) 調整依頼市町村数 2 市町村

(イ) 調整件数 43 件

オ 手話通訳者・要約筆記者派遣懇談会

神奈川県登録手話通訳者・要約筆記者を対象に派遣懇談会を、手話通訳者・要約筆記者の部を合同に実施。午後は情報保障の現場として今後ニーズが期待される教育場面での情報保障の現在の状況について、大学講師を招いて講義を実施した。派遣懇談会の資料はホームページ上に掲載し、情報提供を行った。

(ア) 日 時 令和 6 年 5 月 11 日（土） 10 時 00 分～15 時 30 分

(イ) 内 容

a 午前の部 手話通訳・要約筆記 派遣状況等の報告

b 午後の部 講 義

テーマ 「教育現場における情報保障の現状と課題」

講 師 国立大学法人筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター

助 教 萩原 彩子 氏

(ウ) 参加人数 70 人（手話通訳者 42 人、要約筆記者 28 人）

(エ) 資料項目

a 手話通訳・要約筆記派遣状況（件数）

b 頸肩腕健康診断受診状況（受診数）

c 手話通訳者・要約筆記者派遣運営委員会の状況（回数・内容）

d 市町村意思疎通支援担当者研修会（回数・内容・件数）

e 手話通訳者研修の状況（回数・内容・参加人数）

f 手話通訳者新人研修会の状況（回数・内容）

カ 神奈川県手話通訳者・要約筆記者派遣運営委員会

手話通訳者、要約筆記者派遣の円滑な実施及び研修、頸肩腕障害健診などについて関係団体と協議を実施した。

また、手話通訳者、要約筆記者に関する固有の課題については、専門部会を設けて

協議を行った。事務局は、当センターが担った。

(ア) 委員会

期 日	内 容	参加人数
令 6.5.8	令和 5 年度事業報告、令和 6 年度事業計画	8 人

- ・公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会
- ・特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協会
- ・神奈川県手話通訳者協会
- ・神奈川県要約筆記協会
- ・社会福祉法人神奈川県聴覚障害者総合福祉協会

(イ) 専門部会

a 手話通訳専門部会

期 日	内 容	参加人数
令 6.6.13	「神奈川県域が目指す設置手話通訳者」の作成、手話通訳者派遣の課題についての協議等。	3 人
令 6.8.14	「神奈川県域が目指す設置手話通訳者」の作成、設置手話通訳者との意見交換会の内容、手話通訳者派遣の課題についての協議等。	4 人
令 6.10.9	設置手話通訳者との意見交換会の日程等、今後の流れ、手話通訳者派遣の課題についての協議等。	4 人
令 6.12.11	設置手話通訳者との意見交換会の実施内容、今後の流れ、手話通訳者派遣の課題についての協議等。	4 人
令 7.2.12	設置手話通訳者との意見交換会の実施内容、今後の流れ、手話通訳者派遣の課題についての協議等。	3 人

- ・公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会
- ・神奈川県手話通訳者協会
- ・社会福祉法人神奈川県聴覚障害者総合福祉協会

b 要約筆記専門部会

期 日	内 容	参加人数
令 6.6.27	令和 5 年度実績報告、要約筆記者派遣の課題、 要約筆記者の研修等	5 人
令 6.10.8	令和 6 年度登録要約筆記者の研修参加状況、要 約筆記者派遣の課題、要約筆記者の研修等	4 人

- ・ 特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協会
- ・ 神奈川県要約筆記協会
- ・ 社会福祉法人神奈川聴覚障害者総合福祉協会

(2) 頸肩腕障がい健診

神奈川県登録手話通訳者 207 人中、他機関受診も含め受診者は 179 人、神奈川県登録要約筆記者 175 人中、他機関受診も含め受診者は 113 人であった。神奈川県登録手話通訳者、神奈川県登録要約筆記者を対象に、一般財団法人日本予防医学協会からの出張健診として、当センターにおいて実施した。

実施日は令和 6 年 8 月 13 日（火）、14 日（水）、17 日（土）の 3 日間。手話通訳者、要約筆記者別に日程を設定したが、受診機会を増やすため相互での受診を認めた。手話通訳者、要約筆記者の両方で登録している者の受診は、手話通訳者数で扱った。

一般財団法人日本予防医学協会の直接受診は手話通訳者 5 人であった。ヒアリングが必要な者には連絡を行い、状況確認及び健康管理の促進等の依頼を行うとともに派遣依頼を考慮している。また、手話通訳者、要約筆記者の全員受診の方策についても検討をすすめている。

検査項目は身長・体重・血圧・視力（遠点・近点）タッピング・握力・ピンチ力（左右の人差し指、中指、薬指）・問診票（業務歴および既往歴・自覚症状の有無）と医師の問診で、問診票は 53 項目にわたった。

ア 手話通訳者受診状況

(ア) 登録者数 207 人（県域 170 人 川崎市 37 人 令和 6 年 8 月現在）

申し込む (114 人)	人数
センター受診	109 人
直接受診	5 人
申し込まない (93 人)	人数
居住市町村や他機関で受診	65 人
日程が合わない	11 人
キャンセル	7 人
その他	10 人

(イ) 手話通訳者健診（センター受診および直接受診）

a 期 日

（センター受診） 令和 6 年 8 月 13 日（火）、17 日（土）

（直接受診） 令和 6 年 7 月 12 日（金）、9 月 11 日（水）、10 月 28 日（月）、
11 月 15 日（金）、令和 7 年 1 月 27 日（月）

b 受診者数 114 人（センター受診：109 人・直接受診：5 人）

c 健診結果

区 分	人 数
A 異常所見を認めません	103 人
A2 有所見健康	11 人
B1 要経過観察	0 人
B2 経過観察中	0 人
C1 要精密検査	0 人
C2 治療中	0 人

(ウ) 手話通訳者（他機関にて受診）

a 受診者数 65 人（県域：28 人・川崎：37 人）

b 健診結果

区 分	人数
A 異常所見を認めません	61 人
A2 有所見健康	3 人
B1 要経過観察	1 人
B2 経過観察中	0 人
C1 要精密検査	0 人
C2 治療中	0 人

イ 要約筆記者受診状況

(ア) 登録者数 175 人 (令和 6 年 8 月現在)

申し込む (98 人)	人数
センター受診	98 人
直接受診	0 人
申し込まない (77 人)	人数
居住市町村や他機関で受診	15 人
日程が合わない	41 人
当日キャンセル	2 人
その他	19 人

※ 手話通訳資格者は除く。

(イ) 要約筆記者健診 (センター受診および直接受診)

a 期 日

(センター受診) 令和 6 年 8 月 14 日 (水)、8 月 17 日 (土)

b 受診者数 98 人 (センター受診 : 98 人・直接受診 : 0 人)

c 健診結果

区 分	人 数
A 異常所見を認めません	92 人
A2 有所見健康	6 人
B1 要経過観察	0 人
B2 経過観察中	0 人
C1 要精密検査	0 人
C2 治療中	0 人

(ウ) 要約筆記者 (他機関にて受診)

a 受診者数 15 人 (回答者数 12 人)

b 健診結果

区 分	人 数
A 異常所見を認めません	12 人
A2 有所見健康	0 人
B1 要経過観察	0 人
B2 経過観察中	0 人
C1 要精密検査	0 人
C2 治療中	0 人

7 聴覚障がい福祉の普及啓発

聴覚障がい、聴覚障がい者についての理解を深めるため、講座及び研修会等を実施した。

また、企業、団体等と懇談を行い、事業にも協力するとともに、当センターとの協力関係を築くための取り組みを行った。

(1) 出前コミュニケーション講座

高齢聴覚障がい者の相談ケース等から市町村と連携を図り、聴覚障がい者が初めて入所、または入所予定の高齢者施設向けに対応等と研修を行った。

今後も市町村や地域包括支援センター等との連携、神奈川県「介護サービス情報公表システム」等を活用し、聴覚障がい者が入所する施設の情報収集および研修実施の働きかけを行う。

期 日	施設名	内 容	参加人数
令 6.8.29	特別養護 老人ホーム 稲村ヶ崎きしろ	・入所の聴覚障がい者へのインタビュー ・施設スタッフとのやり取りや介護の実演 ・施設職員とのコミュニケーションで困る事や要望、質問等	14 人

(2) 企業向けコミュニケーション支援研修

ア 研修会

聴覚障がい者を雇用している、または雇用を予定している企業に対して、聴覚障がいの理解、聴覚障がい者との接し方等の研修を行った。

期 日	企業名	内 容	参加人数
令 6.11.26	介護付き 有料老人ホーム 長寿園	・聞こえない体験 ・聞こえない事とは（聞こえのレベル、特性等） ・伝えてみよう（音声認識の使い方、わかりやすいメモの書き方など）	11 人

イ 事業周知の活動

聴覚障がい者が入所する高齢者施設等向け「出前コミュニケーション講座」、聴覚障がい者を雇用した企業等向け「企業向けコミュニケーション支援研修」周知のため、関係機関を訪問した。

神奈川県産業労働局労働部雇用労政課の企業内福祉推進者宛て労働関連資料送付に県障害福祉課経由でエントリーし、研修チラシ 1,560 部を送付。「産業人材育成フォーラム進めよう障がい者雇用」にて、参加者に研修チラシを配布し周知を図った。

また「聴覚障がい者の働く場見学会」にてセンター事業の紹介を行った。

期 日	訪問先や行事名、懇談内容
令 6.4.12	鎌倉市障害者二千人雇用センター
令 6.4.18	神奈川県福祉子どもみらい局 福祉部障害福祉課神奈川県福祉子どもみらい局 福祉部高齢福祉課 神奈川県産業労働局 労働部雇用労政課障がい者雇用促進グループ 神奈川労働局 職業安定部 職業対策課
令 6.4.19	株式会社るるカンパニー るる湘南（就労継続支援 A 型事業所）
令 6.4.25	介護付き有料老人ホーム 長寿園 障害者支援センターぼけっと
令 6.5.30	社会福祉法人すずらの会 ワークショップフレンド 相模原市 健康福祉局地域包括ケア推進部 高齢・障害者支援課
令 6.6.21	ハローワーク厚木 専門援助部門・雇用指導官 ハローワーク大和 専門援助部門・雇用指導官
令 6.7.18	日神機工株式会社 物流本部 運輸部 横須賀営業所
令 6.7.19	日産車体株式会社 人事部（来所）
令 6.7.20	相模原市障害者就業・生活支援センター（松が丘園） 合同会社 DEAF LIFE ふくろうの家
令 6.7.23	介護付き有料老人ホーム 長寿園
令 6.7.29	県央圏域就労移行支援事業所 合同説明会
令 6.8.23	介護付き有料老人ホーム 長寿園 国立研究法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構
令 6.8.27	atGP ジョブトレ大手町（就労移行事業所）事業所説明会
令 6.9.4	産業人材育成フォーラム「進めよう障がい者雇用」（県雇用労政課）
令 6.9.27	東京メタルパック株式会社
令 6.10.11	IT スクール藤沢（就労移行）
令 6.12.17	神奈川県 産業労働局 労働部 雇用労政課 リトハウス関内（就労移行）
令 7.1.16	アズビル株式会社湘南工場
令 7.1.17	ふじさわ障がい者お仕事フェア
令 7.2.13	コッポトリワーク藤沢（リワーク復職）
令 7.2.19	「暮らしに寄り添うデジタル福祉フェア」
令 7.2.28	アズビル株式会社東京本社

ウ 事業問い合わせへの対応

事業に関する問い合わせ、相談に対して、来所、電話、訪問等により対応した。

区 分	電 話	メー ル	来 所	訪 問	計
企 業 等	4 件	1 件	2 件	8 件	15 件
高齢者施設等	0 件	0 件	0 件	2 件	2 件
就労関係等	16 件	0 件	1 件	16 件	33 件
教育機関	4 件	0 件	0 件	0 件	4 件
そ の 他	1 件	0 件	1 件	4 件	6 件
計	25 件	1 件	4 件	30 件	60 件

※ 「イ 事業周知の活動」の一覧表訪問等の数を含む。

(3) 聴覚障がいについて知る講座

講演を通して、聴覚障がいの理解を促すため、高校生を対象に実施した。高校生等が参加しやすいようオンラインで実施した。

期 日	対象者	内 容	参加人数
令 6.5.25	高校生 教職員	第一部「聴覚障がい」について知ろう 第二部「手話」について知ろう 第三部「手話通訳」の仕事について知ろう	16 人

(4) 聴覚障がい理解促進ビデオ制作・配信

聴覚障がい及び聴覚障がい者についての理解を促進するために、関連する基礎的な知識、情報について、番組を制作し、ホームページを通じて配信した。

題 名	内 容
国際手話について	国際手話の成り立ち、特徴や利用されている場所などの解説。
手話通訳者・要約筆記者派遣	手話通訳者、要約筆記者派遣制度の概要や、利用方法などの解説。
手話言語の国際デー	手話言語の国際デーの創設の背景や意義、取り組み内容等の解説。
聴覚障害者用情報受信装置	聴覚障害者情報受信装置「アイドラゴン 4」の機能等の解説。
日本語字幕付映画	日本語字幕付映画の必要性や取組状況などについての解説。

(5) 聴覚障がい理解のための懇談

企業、団体等に対して、聴覚障がい者の日常生活における不便さや、社会参加に向けた要望等について情報提供を行うとともに、企業、団体等が行う事業または ICT を活用した製品等について意見交換を行った。

実施日	企業・団体等名	方 法	参加人数
令 6.5.28	ソフトバンク株式会社	参集	5 人
令 6.7.3	認定特定非営利活動法人湘南ふじさわシニアネット	参集	5 人
令 6.7.12	アデッソ株式会社	参集	7 人
令 6.12.11	横浜ラポール聴覚障害者情報提供施設	参集	4 人
令 7.3.5	株式会社ジャパンディスプレイ	参集	3 人

(6) 聴覚障がい理解のための事業等への協力

団体等が行った、聴覚障がい、聴覚障がい者理解のための事業に協力した。

ア フェリス女学院大学

(ア) 事業名 講義「聴覚障害の理解と手話の技法」

(イ) 日 時

a 令和 6 年 7 月 5 日 (金) 14 : 50～16 : 20

b 令和 6 年 11 月 29 日 (金) 14 : 50～16 : 20

(ウ) 会 場 フェリス女学院大学緑園都市キャンパス

(エ) 協力内容

a ろう者や手話の魅力、ろう文化についての情報提供

b ろう者と聴者が一緒にいる豊かさについての情報提供

c 手話の基本

(オ) 協力人数 1 人

イ 一般社団法人 4Hearts (フォーハーツ)

(ア) 事業名 音声認識機器の商店街広域実証実験

(イ) 期 間 令和 6 年 8 月 1 日 (木) ～9 月 30 日 (月)

(ウ) 内 容 アンケート収集及び広報等

ウ 神奈川県公民館連絡協議会・神奈川県立図書館事業

(ア) 事業名 令和 6 年度生涯学習指導者研修「公民館等担当者コース」第 3 回

(イ) 日 時 令和 6 年 9 月 13 日 (金) 11 : 35～11 : 55

(ウ) 会 場 綾瀬市立中央公民館

(エ) 協力内容

a 綾瀬市立中央公民館が実施した、聴覚障がい者対象講演会等についての講評

b 神奈川県聴覚障害者福祉センター事業紹介

c 聴覚障がい者理解について

(オ) 協力人数 3人

エ 海老名市立柏ヶ谷小学校

(ア) 事業名 難聴理解授業・研修

(イ) 日 時 令和6年12月6日(金) 13:00~16:00

(ウ) 内 容

a 聴覚障がい理解のための情報提供

b 難聴体験等

(エ) 協力人数 2人

オ 神奈川県産業労働局労働部雇用労政課

(ア) 事業名 聴覚障がい者の働く場見学会

(イ) 日 時 令和7年1月29日(水) 14:00~17:15

(ウ) 会 場 アマノ株式会社相模原事業所

(エ) 協力内容

a 当センター事業全体の紹介

b 企業向けコミュニケーション支援研修の目的、内容等の解説

(オ) 協力人数 1人

カ 特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協会

(ア) 事業名 きこえの生活相談会

(イ) 日 時 令和7年2月9日(日) 10:00~15:00

(ウ) 会 場 伊勢原シティプラザ

(エ) 協力内容

a きこえの相談

b 補聴器の相談

(オ) 協力人数 1人

キ 鎌倉市立小坂小学校

(ア) 事業名 第4学年講演会「難聴って何だろう」

(イ) 日 時 令和7年2月27日(木) 13:20~15:45

(ウ) 会 場 鎌倉市立小坂小学校

(エ) 協力内容

a 聴覚障がい理解のための情報提供

b 難聴体験等

(オ) 協力人数 2人

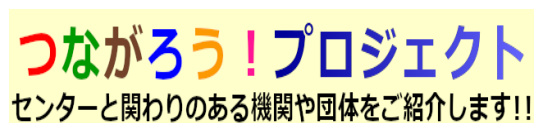
(7) 聴覚障がい理解のための普及啓発

団体や専門機関と当センターがつながることで、それぞれが持つ専門性を活用して、聴覚障がい者支援の充実を図った。誰もが生きやすく、暮らしやすい社会「ともに生きる社会」の実現に向けた取り組みをホームページにて紹介、情報発信を行うとともに、センター公式 LINE アカウントでも周知をした。

バナー内に、質問や相談のための問い合わせフォームを開設した。

ア 「障がいのアナ」と「横浜瀬谷高校」とのコラボ「共生社会プロジェクト」

イ 聴覚障がい者雇用に向けた神奈川県との取り組み“聴覚障がい者の働く場見学会”



センターホームページのバナー

(8) 見学・事業紹介

申請に基づき施設見学、事業紹介を行った。また、ホームページに見学案内を掲載した。

区 分	件 数	人 数
教 育 関 係	4 件	21 人
サークル・一般	13 件	197 人
福 祉 団 体 等	1 件	30 人
行 政 機 関 等	1 件	20 人
個 人	0 件	0 人
計	19 件	268 人

8 地域活動支援

地域における聴覚障がい児者を支援する人材のスキルアップを図るため、市町村の意思疎通支援担当者、相談担当者、設置手話通訳者等を対象に研修の実施、助言及び支援を行うとともに、窓口対応等聴覚障がい児者と関わる機会のある市町村職員等を対象に、聴覚障がいの理解に関する講座を実施した。

(1) 子育て支援事業（新生児聴覚スクリーニング検査の普及啓発及び訪問相談事業）

市町村と連携して支援にあたるとともに、事業の普及啓発及びニーズの掘り起こしを継続して実施した。

聴覚障がいについての理解を深め、関係を強化するために、市町村の保健師等の子育て支援担当者を対象とした研修会を実施した。新生児聴覚検査の意義や保護者支援の重要性について理解を深め、県の新生児聴覚検査に係る取り組みを把握した。また、聴覚障がいへの理解を深め、より良い接し方などを考えるために、難聴疑似体験を実施した。聴覚障がい児の早期発見、早期支援へとつなげていくために、今後も連携していくことを確認した。

・市町村子育て支援担当者聴覚障がい研修会（参集）

期 日	内 容	講 師 等	参加者数
令 6.8.28	講演「聴こえない・聴こえにくいといわれた子どもと保護者の支援」	全国早期支援研究協議会 会 長 南村 洋子 氏	4 市 5 町 24 人
	神奈川県聴覚障害者福祉センターってどんなところ？	神奈川県聴覚障害者福祉センター 主 事 若林 梢	
	ろう学校ってどんなところ？	神奈川県立平塚ろう学校 教 諭 名古 めぐみ 氏 教 諭 安部川 典子 氏 神奈川県立相模原中央支援学校 教 諭 井出 真由美 氏 横須賀市立ろう学校 教 諭 野田 学 氏	
	神奈川県の新生児聴覚検査のいま	神奈川県健康医療局保健医療部 健康増進課 惣田 にき 氏	
	難聴疑似体験・聴障センターの見学	神奈川県聴覚障害者福祉センター 主 事 若林 梢	

(2) 市町村意思疎通支援担当者研修会

市町村での聴覚障がい者への相談の円滑な実施のため、担当職員等の技術、資質の向上及び聴覚障がい者が市町村の手話通訳者、要約筆記者の派遣制度を安心して利用でき、地域で安定した生活を送るために、市町村の設置手話通訳者、連絡調整業務担当者、相談担当者等の聴覚障がい関係職員等を対象に研修会を行った。

ア 第1回（ろう者支援、手話通訳者派遣関連）

関東でもいつ災害が起きてもおかしくない昨今の状況を踏まえ、災害発生時に備えての環境づくりとして、多様な機関との連携について考える研修を実施した。実際に、災害が多く発生している静岡県富士市での社会福祉協議会の災害ボランティアセンターと、富士市防災危機管理課の連携や、災害をきっかけに動き始めた被災者の支援ネットワークづくりについて、学んだ。特にボランティアの役割について、また支援する側に必要な「想像力」や「傾聴力」を、具体的な問いかけの事例に基づき学んだ。また、今年度より登録している神奈川 DWAT の紹介や、神奈川県県域対策本部の活動についても、情報共有した。後半は、派遣コーディネートからの事例を中心にグループディスカッションし、地域の課題を情報交換した。

参加者は 18 人（14 市町）であった。

(前 半)

期 日	テ ー マ	講 師 等
令 6.11.20	「静岡県富士市の取り組みについて」 ・ 富士市の防災危機管理課の取り組み ・ 災害ボランティアセンターの取り組み ・ 富士市と災害ボランティアセンターの連携 ・ 今後の課題等	富士市防災危機管理課 太田 智久 氏 社会福祉法人富士市社会福祉協議会 地域支援係・ボランティアセンター 加藤 慎也 氏
	神奈川 DWAT の活動登録について	神奈川県聴覚障害者福祉センター職員

(後 半)

期 日	テ ー マ	講 師 等
令 6.11.20	講義「聴覚障害者災害対策救援県域本部の取り組み」	公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会 事務局長 河原 雅浩 氏

	「グループディスカッション」各市町村の課題や事前アンケートから情報共有	Aグループ（海老名市、逗子市、葉山町、藤沢市、大和市、横須賀市）、Bグループ（寒川町、逗子市、二宮町、平塚市、大和市）Cグループ（小田原市、相模原市、茅ヶ崎市、葉山町）Dグループ（大磯町、鎌倉市、座間市、藤沢市、山北町）※複数人数参加市町村は、別グループに分かれて参加。
	各グループでの話し合い内容について共有（発表）	各グループ代表

イ 第2回（中途失聴者・難聴者支援、要約筆記者派遣関連）

前半は、派遣コーディネイト業務をする上で必要となる、要約筆記に関する基礎知識の講義を行った。地域での手話通訳者派遣コーディネイトには、設置手話通訳者が関わったり、実際にコーディネイトを担当することが多いが、市町村での要約筆記者派遣コーディネイト担当者は要約筆記者ではないことが多い。要約筆記はどのように行っているのか体験の時間を、手書き、パソコン別に設けた。後半は要約筆記を市民に広く発信するための取り組みや、要約筆記の認知度が低いことに対する対策等を中心に、情報交換を行った。

参加者は、19人（15市町村）であった。

（前半）

期 日	テ ー マ	講 師 等
令 7.2.12	「要約筆記の基礎知識」	神奈川県要約筆記協会 会 長 工藤 栄子 氏

（後半）

期 日	テ ー マ	講 師 等
令 7.2.12	「グループディスカッション」－事前アンケートにあった課題等について－	Aグループ （藤沢市、小田原市、座間市、綾瀬市、松田町） Bグループ （平塚市、茅ヶ崎市、葉山町、寒川町、相模原市） Cグループ （大和市、伊勢原市、二宮町、中井町） Dグループ （藤沢市、茅ヶ崎市、綾瀬市、葉山町、横須賀市） ※複数人参加市町村は、別グループに分かれて参加)
	各グループでの話し合い内容について共有（発表）	各グループ代表

(3) 市町村聴覚障がい理解講座

市町村職員等を対象に、聴覚障がい及び聴覚障がい児者との接し方等についての情報提供を行い、聴覚障がい児者が地域で安心して暮らせるコミュニケーションの環境の整備を図った。オンデマンドでの理解講座を実施し、要望に応じて参集でも実施した。

(オンデマンド)

期 日	方 法	対象地域	参加者数
随 時	オンライン	全市町村	4 市 6 人

(参 集)

期 日	方 法	対象地域	参加者数
令 6.7.10	参 集	全市町村	9 市 7 町 20 人

9 広報等

広報紙を発行し、関係機関、団体等に配布するとともに、ホームページを用いて各種講座、講習会、事業紹介等のお知らせ、ストリーミングにより手話動画配信を行った。

また、神奈川県聴覚障害者福祉センターLINE 公式アカウントを利用し、文字情報に加え手話による情報、字幕付き映像などの情報提供を行った。

提案箱の設置、苦情解決の取り組み等を行った。

(1) 広報紙「神奈川県聴覚障害者福祉センターだより」

ア 発行回数 6回（隔月発行）

イ 発行部数 4,000部（1回）

(2) 神奈川県聴覚障害者福祉センターホームページ

ア トップページアクセス数 64,759件

イ 新規掲載情報件数 （※令和5年度からの継続掲載記事は除く。）

区 分	件 数
講座・講習会・研修会のお知らせ	33件
センター事業のお知らせ	53件
センターからのお知らせ	7件
聴覚障がい児者関連情報案内	3件
手話通訳者、要約筆記者、盲ろう者通訳・介助員向け案内	56件
計	152件

ウ 主な改善点

（ア）掲載内容の更新

（イ）リンク先の拡大

（ウ）トップページの可視性を向上

（エ）センターの事業等で実施されている合理的配慮についての紹介記事を掲載

（オ）検索機能の設置

（カ）セキュリティ強化のためSSL（暗号化通信）に対応

(3) 神奈川県聴覚障害者福祉センターLINE 公式アカウント

ア 登録人数 946人

イ 配信回数 60件

ウ 配信先件数 52,290件

(4) 提案箱「皆さまの声」の設置

設置場所 ロビー

投書件数 0件

(5) 苦情解決に関する仕組みの広報

掲示場所 ロビー

(6) 苦情件数 0件

10 利用者利便の向上

利用者の利便を図るために、部屋、機材等の貸し出しなどを行った。

(1) 部屋の貸し出し

利用者の利便拡大のため、平成 24 年 1 月から特定日曜日を設け、聴覚障がい者団体、聴覚障がい関係団体に対して、早期からの部屋貸し出しを行っている。

基礎的な換気、消毒等の感染対策を講じながら、通常の貸出し等を行った。

名 称	件 数	人 数
大講習室	110 件	3,824 人
小講習室	55 件	622 人
会議室	112 件	1,588 人
ボランティア室	273 件	2,484 人
和 室	0 件	0 人
資料室	107 件	819 人
計	657 件	9,337 人

(2) 機材、用具の貸し出し

館内利用者等に対して、機材、用具の貸し出しを行った。

機 材 等	件 数
液晶プロジェクター	140 件
OHP、スクリーン等	93 件
携帯用ヒアリンググループ (聴覚障がい者関係団体)	2 件
携帯用ヒアリンググループ (民間団体等)	15 件
テレビ、デッキ等	330 件
講師用パソコン	49 件
計	629 件

(3) 検索用パソコンの設置

検索用パソコンをロビーに設置し、利用者の利便を図った。

利用件数 0 件

(4) 自動体外式除細動器 (AED) の設置

自動体外式除細動器 (AED) をロビーに設置し、緊急時の対応に備えた。

使用件数 0 件

(5) 点字及び点字ブロックの設置

エレベーター、案内板等に点字を設置するとともに、各階に点字ブロックを設置し、視覚障がい者の利便を図った。

点字ブロック設置場所
1 階廊下・2 階廊下・地下廊下

(6) ヒアリンググループの設置

ヒアリンググループを講習室等に設置し、補聴器、人工内耳装用者の利便を図った。

階	ヒアリンググループ設置場所
1 階	補聴相談室
2 階	大講習室・小講習室・会議室・ボランティア室
地下	資料室

(7) 利用団体用ロッカーの貸し出し

当センターを定期的に利用する関係団体の資料、資材等の保管のために、ロッカーを設置し、貸し出しを行い、利用者の利便を図った。

貸し出しロッカーは、年度ごとに更新を行う。

利用団体用貸し出しロッカー数 22 個

(8) 多目的トイレの設置

1 階「車いす等用トイレ」を、「多目的トイレ」に改めている。車いすの方、高齢者、小さな子ども連れの人等も、男女共用で誰でも気軽に利用できる「多目的トイレ」として活用することで、利用者の利便を図った。

多目的トイレ数 1 ヶ所

(9) 折り機の設置

当センターを利用する関係団体等が会報、資料等の折り込みに活用するため、自由に利用できる折り機を設置し、利用者の利便を図った。

折り機設置台数 1 台

(10) プロジェクターの固定設置

天井にプロジェクターを固定設置し、貸出、設置等について、利用者の利便を図った。

設置場所 大講習室

(11) 移動式引き上げスクリーンの配置

移動式の軽量の引き上げ型スクリーンを配置し、資料投影、情報保障等で活用の円滑化を図り、利用者の利便を図った。

設置台数 3 台

(12) 折りたたみ式スロープの配置

折りたたみ式スロープを設置し、段差の解消に努めた。

配置場所 地下 1 階入口

(13) 神奈川県聴覚障害者福祉センター部屋利用団体懇談会

部屋利用に関しての利用団体との意見交換を行った。

回 数 1 回

11 ICT化への取り組み

利用者がインターネットを活用して、パソコン、スマートフォンや携帯電話、タブレット型端末などの ICT 関係の機器を活用できるように環境を整備した。また、事業でも ICT を活用して、利用者の利便性の向上、事業の効率化等を図った。

(1) 施設管理運営業務の取り組み

ア Wi-Fi 環境の整備

ロビー、講習室等に Wi-Fi ルーターを設置し、館内では、パソコン、スマートフォン、携帯型タブレット端末でのインターネット接続を可能とした。また、利用方法をロビー及び講習室に掲示し、利用を推進した。

(ア) Wi-Fi ルーター設置場所

設置場所	台数
1 階	3 台
地下 1 階	1 台
2 階	3 台

(イ) 利用方法

a SSID Kanagawa-wad-wifi

b パスワード kanagawawad1911

イ 施設利用に係る問合せ、部屋利用予約等のメールによる対応

<ホームページ「お問い合わせ・アクセス」欄に掲載したメールアドレス>

【総合受付】(部屋予約・見学予約等含む)	office@kanagawa-wad.jp
【手話通訳者、盲ろう者通訳・介助員派遣担当】	haken@kanagawa-wad.jp
【要約筆記者派遣担当、要約筆記者養成担当】	pc-youyaku@kanagawa-wad.jp
【相談・支援、聴力検査、補聴器調整担当】	soudan@kanagawa-wad.jp
【ビデオライブラリー担当】	video@kanagawa-wad.jp
【手話通訳者養成担当】	shuwa-y@kanagawa-wad.jp
【盲ろう者に関する相談】	moro-sodan@kanagawa-wad.jp

ウ テレワークにも対応できる ICT 環境の整備

リモートアクセスサービスによる職場のネットワークへのアクセス、情報資産の効率的活用を進めている。

エ 電光掲示等

館内各所に電光表示を設置し、部屋利用に関する情報を提供し、利用者の利便性向上を図った。また、情報モニターを設置し、自主制作番組等を放映した。

区 分	設置場所	台数
施設予約総合案内	玄関	1 台

情報モニター	ロビー	1 台
部屋利用表示	大講習室、小講習室、ボランティア室、会議室、資料室、和室	6 台
部屋利用状況表	ロビー	1 台

オ ICT 機器の設置

(ア) 自動音声認識システムの設置

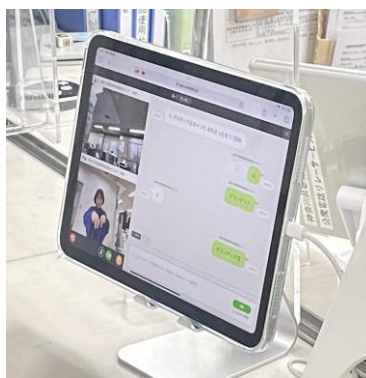
透明ディスプレイに、音声認識で変換された文字を表出する、シースルーキャプションを受付にて使用している。



「透明インターフェイス Raelclear (レルクリア)」

(イ) 手話・音声の文字変換システム「SureTalk (シュアトーク)」の設置

表出された手話は端末のカメラを通じ AI が身体動作を追跡、手話の特長を抽出することで、手話の内容を文字に変換、音声も文字に変換しコミュニケーションをより円滑にするシステムを設置している。



カ QRコードによる施設紹介用動画設置

施設紹介手話動画を制作し、スマートフォン、タブレット型端末等で読み込むことができるQRコードを4箇所に設置した。

設置階	設置場所
1 階	ロビー
	レリーフ
	補聴相談室前
2 階	大講習室前

キ タブレット型端末の貸し出し

タブレット型端末の操作方法等を支援し、ICT活用を図るため、タブレット型端末の貸し出しを開始した。

貸し出し件数 0 件

(2) 事業における取り組み

ア 情報提供

SNS やメールを活用した情報提供、動画配信、聴覚障がい者向けのアプリ・機器等の紹介等に取り組んだ。

(ア) SNS、メールの活用

ホームページで公開したメールアドレスを活用して、事業における情報提供を行った。

また、SNS の活用として、神奈川県聴覚障害者福祉センターLINE 公式アカウントを運用し情報提供を行った。

神奈川県聴覚障害者福祉センターLINE 公式アカウント

(友だち登録用 QR コード)



(イ) 動画配信

ホームページを活用して動画のストリーミング配信を行った。また、神奈川県聴覚障害者福祉センターLINE 公式アカウントでも紹介動画等を掲載し配信した。ロビーには、情報モニターを設置し、自主制作番組等の放映を行った。

a ホームページからの動画配信 478 件

b LINE公式アカウント動画配信 16 件

c ロビー情報モニター動画配信 17 件

(ウ) 聴覚障がい者向けのアプリ・機器等の紹介等

聴覚障がい者向けのアプリ・機器を相談等で紹介を行うとともに、機器の試用を行った。

a 紹介した主なアプリ・機器

区 分	名 称
アプリ	音声認識文字変換アプリ等 ・「UD トーク」 ・「Speech Canvas」 ・「YY 文字起こし」 ・「YYProbe」 ・「声文字」(自立コム (有料)) ・「見える電話」 ・「こえとら」 ・「声で筆談」 ・「タップで会話」 ・「Live Transcribe (Android)」 ・「Vosual」 ・「しゃべって筆談」 ・「ヨメテル」など
機 器	自動音声認識システム「レルクリア」

b 試用した機器

(a) 手話音声変換コミュニケーションシステム「SureTalk (シュアトーク)」

特 徴 AI を活用して、手話で話した内容を文字に変換し、音声を文字に変換するコミュニケーションシステム。画面を通して手話と音声で会話ができる。手話動画データの登録を増やすことで、手話の認識精度が向上し、変換の円滑化が促進される。

試 用

- ・期 日 令和 6 年 5 月 28 日 (火)
- ・場 所 神奈川県聴覚障害者福祉センター

手話単語等登録のための撮影協力

- ・期 日 令和 6 年 9 月 25 日 (水)
- ・場 所 神奈川県聴覚障害者福祉センター

イ 相談・支援事業

ろうあ相談を中心に、SNS の LINE、メールのチャット機能、メールでの相談にも応じた。また、クラウドの活用も開始した。

聴覚障がい乳幼児支援、コミュニケーション支援では、申込等に Web アプリケーション「Google フォーム」も活用するとともに、実施にあたっては、WEB 会議システム「Zoom」も活用した。

- ・オンライン相談件数 280 件
 - ・オンラインによる支援回数
 - 聴覚障がい乳幼児支援 5 回 112 人
 - コミュニケーション支援 9 回 66 人
- ※ 回数には、参集・オンライン併用を含む。

ウ 手話通訳者・要約筆記者派遣

手話通訳者、要約筆記者の派遣では、WEB 会議システム「Zoom」等を活用してのオンライン派遣を行った。また、手話通訳者、要約筆記者との連絡調整には、メールも活用するとともに、派遣申請及び派遣申請者との連絡調整にもメールを活用した。

オンライン派遣区分	件数	人数
手話通訳者派遣	34 件	68 人
要約筆記者派遣	40 件	162 人
計	74 件	230 人

エ 講習会・研修会等

手話通訳者養成講習会では、申込等に Web アプリケーション「フォームメーカー」を活用して受け付けた。また SNS の LINE や WEB 会議システム「Zoom」の活用、及び音声認識文字変換アプリ「UD トーク」「YY 文字起こし」も活用した。他、タブレット端末を活用してグループ討議を行う等もした。講師、受講者等との連絡調整にはメールおよび LINE グループ機能も活用し事務効率化を図った。

要約筆記者養成講習会では共通講義を、WEB 会議システム「Zoom」を活用しての同時配信を行った。要約筆記者養成委員会では、WEB 会議システム「Zoom」も活用した。また、講師、受講者、委員等との連絡調整にはメールも活用した。

講座、研修会等では、申込等に Web アプリケーション「Google フォーム」および「フォームメーカー」も活用して利用者の利便を図るとともに、WEB 会議システム「Zoom」を活用しての講座、研修、会議、打ち合わせ等も行った。

区 分	講座・研修名	メール	SNS	動画 配信	WEB 会議	Web アプリ
各種講座	教養講座	○	○			○
	おしゃべりサロン	○	○			
	難聴者サロン	○				○
	社会生活力講座	○	○			
	職業研修（パソコン操作）	○			○	
手話通訳 者・要約 筆記者の 技術研修	手話通訳者研修会	○				
	手話通訳者技術研修会	○				○
	手話通訳者新人研修会	○		○		
	三者共催要約筆記者研修会	○			○	○
地域活動 支援	市町村聴覚障がい理解講座	○		○		○
聴覚障 がい福祉の 普及啓発	高校生対象「聴覚障がいについて知る講座」	○	○		○	○

※ 情報提供、相談・支援、手話通訳者・要約筆記者派遣、手話通訳者・要約筆記者養成等の事業を除く。

※ メールのみを活用した事業は除く。

※ 「SNS」は、LINE、FaceTime、Skype 等

※ 「動画配信」は、インターネット動画配信サービス「YouTube」等

※ 「WEB 会議」は、WEB 会議システム「Zoom」、「Google Meet」、「Microsoft Teams」等

※ 「Web アプリ」は、Web アプリケーション「Google フォーム」「フォームメーカー」等

（３）オンラインでの事業実施状況

ICT を活用して、オンラインまたは、参集・オンライン併用で事業を実施した。

実施にあたっては、WEB 会議システム「Zoom」を活用するとともに、インターネット動画配信サービス「YouTube」を利用しての、事前収録した映像の配信または同時配信も行った。相談では SNS 等も活用した。

区 分	事業の名称等		件数・回数	オンライン 参加人数	備 考
相談	相談（映像での相談）		137	137	WEB会議システム等による。他に、SNSチャット等による相談件数は、143件。
支援	聴覚障がい乳幼児支援		5	107	勉強会
	コミュニケーション支援		9	66	コミュニケーション支援講座
講座	職業技術研修(パソコン操作技術研修)		10	52	WEB会議システム等による。
手話通訳者・要約 筆記者の 養成	手話通訳者養成講習会	「通訳Ⅰ」	1	12	オンデマンド配信。令和5年度開始コースを含む。
		「通訳Ⅱ・Ⅲ」	1	1	WEB会議システム活用。令和5年度開始コースを含む。
	要約筆記者養成	令和6年度養成講習会	14	40	共通講義の同時配信
手話通訳者・要約 筆記者の 技術研修 等	三者共催要約筆記者研修会		1	39	オンライン同時配信。
	要約筆記者オンライン勉強会		1	17	WEB会議システム活用
手話通訳者・要約 筆記者の 派遣	手話通訳者派遣（オンライン）		34	68	会場、拠点からのオンラインによる情報保障者数。
	要約筆記者派遣（オンライン）		40	162	会場、拠点、自宅からのオンラインによる情報保障者数。
聴覚障がいの理解 促進	高校生対象「聴覚障がいについて知る講座」		1	16	WEB会議システム活用
地域活動 支援	市町村聴覚障がい理解講座		2	6	オンデマンド配信
その他	職員の研修、会議への参加等		9	22	会議・研修、職員研修会等。

※ 回数には、参集・オンライン併用を含む。

※ ホームページからの動画配信等を除く。

12 災害対策等

地震等の自然災害、感染症拡大等の非常事態に備えて、対策に取り組んだ。

業務継続計画について協議を行うとともに、災害時強化事業として、平時からの取り組みを行った。

また、施設管理、事業等で感染症予防対策を実施した。

(1) 業務継続計画の課題検討、点検見直し

災害対策強化に関する会議を実施し、業務継続計画（自然災害等、新型インフルエンザ等感染症対策）の課題検討及び点検見直しを行った。

課題検討・点検見直し作業

実施日	内 容
令 6.8.15	業務継続計画（自然災害等、新型インフルエンザ等感染症対策）の課題検討。
令 7.3.12	業務継続計画（自然災害等、新型インフルエンザ等感染症対策）の課題検討並びに点検見直し。

(2) 災害時強化対策事業

災害時に備え、災害対策強化を検討、訓練を通じて災害時の対応強化を実施するとともに、備蓄品の管理を行った。

また、聴覚障害者災害対策救援神奈川県本部事務局として、当事者団体及び支援者団体との連携を図り、災害時における神奈川県域の聴覚障がい者の情報保障拠点として機能するよう、検討を行い県域における聴覚障がい者、関係者の防災意識の向上、災害被害の軽減化を図った。

ア 災害時対応

(ア) 備蓄品の整備

(イ) 防災に関する近隣住民との交流促進

町内会員として藤沢東部地区総合防災訓練に参加

(ウ) 藤沢市が実施している『救命セーフステーション標章交付制度』への登録

イ 訓練

(ア) 防災訓練講習実施

4 回

総合防災訓練（地震発生に伴い火災発生を想定とした消防・避難訓練）、吐しゃ物・嘔吐物の処理訓練、通報訓練、安否確認訓練

※ 通報訓練では、聴覚障がい者がファックスに加え、電話リレーサービスによる電話での通報訓練を実施した。



電話リレーサービスによる通報訓練



吐しゃ物・嘔吐物の処理訓練

(イ) 県、市町村及び町内会防災訓練参加 2回

ウ 教育

安否確認の方法、吐しゃ物・嘔吐物の処理

エ 聴覚障害者災害対策救援神奈川県本部

(ア) 会議 5回

(イ) 訓練 1回

令和7年3月22日(土) 安否確認訓練

※市町村及び県行政へ報告実施。

(ウ) 県防災訓練参加 1回

聴覚障害者災害対策救援神奈川県本部として、令和6年11月23日(土・祝)
「ビッグレスキューかながわ」(令和6年度神奈川県総合防災訓練)展示体験コーナーにブース出展。



(エ) 学習会・講習会

2 回

a 令和 6 年 7 月 6 日（土）

報告会 令和 6 年度『防災について』のアンケート

～市町村本部の取組、安否確認訓練～

令和 6 年度に実施したアンケート、安否訓練をもとに、県域本部、市町村本部の取組について、報告及び情報交換実施。

b 令和 7 年 2 月 16 日（日）

講演会 『能登半島地震における聴覚障害者の現状と今後の課題』

～大切な命を守るために必要なことは？！～

神聴協福祉対策部&バジ協&災害対策救援県域本部共催

講師：藤平 淳一 氏

(オ) 災害時対応

地震、大雨災害時の市町村本部及び関係団体への、注意喚起及び安否確認実施。

オ 災害等の緊急対応の試行

災害時、緊急時の情報保障および遠隔手話通訳実施に向けた準備として、遠隔地とセンターを結び、タブレット型端末によるテスト通信を実施した。

実施日	場 所	内容等
令 6.7.31	入町公園	センター避難訓練

(3) 感染症防止対策

基本的な感染予防対策（適切なマスク着用、三密の回避、手洗い等の手指衛生、効果的な換気等）を行い、事業を実施した。

13 関係団体・機関との連絡調整、会議等

聴覚障がい者団体、聴覚障がい者関係団体等と協議、連携を取るとともに、特定非営利活動法人全国聴覚障害者情報提供施設協議会等とも協議、協力を行った。

(1) 特定非営利活動法人全国聴覚障害者情報提供施設協議会

ア 令和6年度総会及び第20回（通算32回）施設大会

期 日 令和6年6月13日（木）～14日（金）

会 場 みやぎハートフルセンター（仙台市）

議 案 令和5年度事業報告及び決算等

令和6年度事業計画及び予算等

役員選任

施設長会議 事務局体制の確立と今後の協議会のあり方について

講演・シンポジウム

「評価基準を活用した支援の底上げについて（調査・研究事業に基づいて）」

参加職員数 1人

構成機関等 全国の聴覚障害者情報提供施設、並びに団体、企業等の賛助会員

イ 関東ブロック（第3ブロック）

（ア）ブロック会議

・期 日 令和6年8月27日（火）

会 場 川崎市聴覚障害者情報文化センター

内 容 令和6年度事業計画及び情報交換等

参加職員数 1人

・期 日 令和6年11月28日（木）

会 場 埼玉聴覚障害者情報センター

内 容 全聴情協理事会からの提案等及び情報交換等

参加職員数 1人

・期 日 令和7年3月6日（木）

会 場 千葉聴覚障害者センター

内 容 全聴情協理事会からの提案、役員選任等及び情報交換等

参加職員数 1人

（イ）構成機関

茨城県立聴覚障害者福祉センター「やすらぎ」、

とちぎ視聴覚障害者情報センター、

群馬県聴覚障害者コミュニケーションプラザ、

埼玉聴覚障害者情報センター、千葉聴覚障害者センター、

聴力障害者情報文化センター、山梨県立聴覚障害者情報センター、

横浜ラポール聴覚障害者情報提供施設、川崎市聴覚障害者情報文化センター、

当センター、東京手話通訳等派遣センター（賛助会員）

（２）神奈川県内聴覚障害者情報提供施設会議

ア 手話通訳者・要約筆記者派遣担当者会議（３ 窓口会議）

期 日 令和 6 年 6 月 6 日（木）（オンライン）

内 容 手話通訳者、要約筆記者派遣担当窓口分担調整、並びに派遣における課題協議等

参加職員数 3 人

イ 構成機関 横浜ラポール聴覚障害者情報提供施設

川崎市聴覚障害者情報文化センター

当センター

（３）神奈川県ライトセンターとの懇談

期 日 令和 6 年 5 月 7 日（火）

会 場 神奈川県聴覚障害者福祉センター

内 容 事業の協力、連携等について

参加職員数 7 人

（４）手話通訳者研修会担当者会議

回 数 2 回

構成団体 公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会

神奈川県手話通訳者協会

当センター

内 容 令和 6 年度の手話通訳者研修会の内容・担当の協議

令和 7 年度の手話通訳者研修の内容の協議

参加職員数 2 人

（５）手話通訳者新人研修担当講師との打ち合わせ会議

期 日 令和 6 年 4 月 13 日（土）

公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会

神奈川県手話通訳者協会

当センター

内 容 令和 6 年度手話通訳者新人（1 年目）研修の内容を協議

（６）三者共催要約筆記者研修会打ち合わせ会議

期 日 令和 6 年 5 月 1 日（水）

特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協会

神奈川県要約筆記協会

当センター

内 容 令和 6 年度三者共催要約筆記者研修会の内容の協議

(7) その他

ア 市町村意思疎通支援担当者会議

期 日 令和7年2月6日(木)(オンライン)

主 催 神奈川県福祉子どもみらい局福祉部障害福祉課

参加職員数 1人(オンライン)

14 所内会議等

(1) 職員会議

会 議 名	回数	主な協議内容
所長会議	12回	日常的な事業、運営について、情報共有、課題検討等
施設事業課会議	12回	指定管理事業等の実施に関する情報共有及び課題検討等
総務課会議	12回	全体の事業実施状況及び運営等に関する課題検討等
全体会議	12回	職員間での情報共有及び課題検討等

(2) 専門事業別会議

会 議 名	回数	主な協議内容
ケース会議	11回	相談、支援ケースの処遇、対応等についての協議検討
手話通訳者・要約筆記者派遣担当者会議	6回	手話通訳者、要約筆記者派遣等に共通する課題の検討及び研修等の事業調整、情報共有、相互支援の調整等

(3) 所内委員会・その他の会議

委員会名・会議名	回数	主な協議内容
K A I Z E N	2回	センター利用者及び職員の環境整備について等
広 報	1回	ホームページのより良い活用方法について等
ICT 活用	7回	手話翻訳アプリの設置、単語撮影、運用等
災害対策強化	2回	業務継続計画の課題検討及び点検見直し、災害時の課題検討等

15 職員の研修等

(1) 職員研修

ア 電話リレーサービス

期 日 令和6年4月10日(水)

方 式 参 集

内 容 電話リレーサービスの概要及び利用方法等

講 師 八百谷 梨江 氏(一般財団法人日本財団電話リレーサービス)

イ 情報セキュリティ講座

期 間 令和7年3月18日(火)～3月30日(日)

方 法 オンデマンド方式

内 容

区 分	テ ー マ
第1講義	個人情報保護法の定義や基本
第2講義	個人情報の管理方法
第3講義	個人情報が漏洩した場合どうなるか?(事例を含む)
第4講義	個人情報が漏洩した場合の対処方法及びまとめ

講 師 野崎 広治 氏(株式会社クリエイトパートナー講師)

(2) 専門研修

ア 相談・支援関係

(ア) 第146回難聴言語障害研究会

主 催 一般社団法人日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会神奈川県地方部会

期 日 令和6年7月13日(土)(オンライン)

(イ) 相談支援研修会

主 催 特定非営利活動法人全国聴覚障害者情報提供施設協議会

期 日 令和6年9月26日(木)～9月27日(金)

(ウ) Sネット市民セミナー『『老』を支え支えられて』

主 催 特定非営利活動法人湘南ふくしネットワークオンブズマン

期 日 令和7年3月8日(土)

イ 育成普及関係

(ア) 意思疎通支援担当者研修会

主 催 特定非営利活動法人全国聴覚障害者情報提供施設協議会

期 日 令和6年7月25日(木)～7月26日(金)

(イ) 全聴情協関東ブロック映像制作担当者研修会

主 催 特定非営利活動法人全国聴覚障害者情報提供施設協議会

第3ブロック

期 日 令和 7 年 1 月 29 日（水）

（ウ）全聴情協第 3 ブロック研修会

主 催 特定非営利活動法人全国聴覚障害者情報提供施設協議会
第 3 ブロック

期 日 令和 7 年 3 月 6 日（木）

ウ その他

（ア）障害者差別解消法に係る説明会

主 催 内閣府

期 日 令和 6 年 6 月 4 日（火）～6 月 6 日（木）（オンライン）

（イ）KAIT TOWN オープン・イベント

「能登半島地震の支援と私たちの災害対策」緊急報告会

主 催 神奈川工科大学

期 日 令和 6 年 7 月 5 日（金）（オンライン）

（ウ）令和 6 年度神奈川 DWAT 登録研修

主 催 神奈川県・社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

期 日 令和 6 年 7 月 22 日（月）（オンライン）

（エ）令和 6 年能登半島地震神奈川 DWAT 活動報告会

主 催 神奈川県・社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

期 日 令和 6 年 10 月 24 日（木）

（3）職員の講演等

ア 県立学校人権教育校内研修会

主 催 神奈川県立横浜翠嵐高等学校

期 日 令和 6 年 8 月 22 日（木）

イ 相模原市要約筆記者養成講座

主 催 社会福祉法人相模原市社会福祉事業団

期 日 令和 6 年 8 月 22 日（木）

ウ 健康講座ふれセン元気塾

主 催 一般社団法人光が丘ふれあいセンター

期 日 令和 6 年 9 月 21 日（土）

エ コミュニケーション読話教室

主 催 特定非営利活動法人相模原市難聴者協会・土の会

期 日 令和 6 年 11 月 2 日（土）

オ 中途失聴者・難聴者のための福祉機器講習

主 催 横須賀中途失聴・難聴者の会「こだま」

期 日 令和 6 年 11 月 17 日（日）

- カ 茅ヶ崎市入門要約筆記講習会
主 催 茅ヶ崎市要約筆記者連絡会
期 日 令和7年1月8日（火）
- キ 厚木市要約筆記者養成講習会
主 催 あつぎ文字通訳「道」
期 日 令和7年1月20日（月）
- ク 海老名市要約筆記者養成講習会
主 催 筆記通訳 風
期 日 令和7年1月24日（金）
- ケ 綾瀬市要約筆記者講習会（入門編）
主 催 綾瀬市障がい福祉課
期 日 令和7年1月24日（金）
- コ 平塚市パソコン要約筆記者養成講習会
主 催 平塚市要約筆記者連絡会
期 日 令和7年1月28日（火）
- サ 講師養成講習会（通訳養成）
主 催 公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会
期 日 令和7年2月8日（土）

（４）ボランティアの受け入れ状況

ボランティアの受け入れを行い、支援を得た。延 15 人。

区 分	人 数
保 育	7 人
パソコン点検	8 人
施設見学、剪定	0 人
相談支援	0 人
講座支援	0 人
計	15 人

（５）実習生の受け入れ 0 人

16 神奈川県聴覚障害者福祉センター施設維持管理

(1) 建築物の保守管理

建築物について、特に問題なく、外壁、内壁等の状態を監視、維持できた。

(2) 建築設備の保守管理

ア 検査、点検、法定点検等保守管理

(ア) 簡易専用水道検査（年 1 回）令和 7 年 3 月 18 日（火）実施

業務委託先：一般社団法人神奈川県保健協会

(イ) 消防設備点検（年 2 回）令和 6 年 8 月 19 日（月）及び令和 7 年 2 月 10 日（月）

実施

業務委託先：藤沢総合設備株式会社

(ウ) 電気工作物保守点検（年 6 回）隔月 1 回実施

業務委託先：一般財団法人関東電気保安協会

(エ) 受水槽点検（年 1 回）令和 7 年 2 月 24 日（月）実施

業務委託先：三幸株式会社

(オ) 敷地内樹木剪定（通年）

随時清掃職員により実施

イ 清掃

(ア) 日常清掃（通年）

清掃職員により実施。

(イ) 定期清掃（年 2 回）令和 6 年 11 月 11 日（月）及び令和 7 年 3 月 24 日（月）

実施

業務委託先：マルコービルワークス株式会社

(ウ) 受水槽清掃（年 1 回）令和 7 年 2 月 24 日（月）実施

業務委託先：三幸株式会社

(3) 備品等の保守管理業務

ア 事務備品

施設の運営に支障をきたさないよう事務備品の維持、管理を適正に行った。

イ 事務備品消耗品

施設の運営に支障をきたさないよう必要な消耗品の購入、管理を行った。

ウ 重要物品

施設の運営に支障をきたさないよう保守点検を行った。

(4) 保安警備業務

事故、災害及び犯罪等から利用者の安全を図ることができるよう適切な管理体制を整備、維持し、保安警備を適切に行った。

(5) 施設保全業務

施設の点検、保全に努め、建築物及び設備等に不具合はなかった。

令和 6 年度

聴覚障害者福祉センター利用状況

項 目	人数等	備 考
相 談	4,007 件	乳幼児、学齢児、ろうあ者、 中途失聴者、難聴者、医療相談、 電話・ファクス相談等
支 援	2,779 件	補聴支援（聴力検査、補聴器適合、自立 支援等）
	299 人	聴覚障がい乳幼児を対象とした聴能、 言語及びコミュニケーション支援
	337 人	聴覚障がい者を対象としたコミュニケ ーショングループ支援、支援講座
ビデオライブラリー	16,639 件	貸し出し件数、ストリーミング配信ア クセス件数
各種講座・講習・研修会等	4,978 人	各種講座、手話通訳者・要約筆記者養 成講習会、研修会、普及啓発関係講座、 頸肩腕健診、各種会議等
派 遣	509 人	手話通訳者の派遣
	897 人	要約筆記者の派遣
機 器 貸 し 出 し 等	629 件	福祉機器、OHP、スクリーン、テレビ、 ビデオデッキ等
ヒアリンググループ貸し出し	17 件	聴覚障がい者関係団体 2 件 民間企業等 15 件
ホームページアクセス数	64,759 件	1 日当たり 177.4 件
見 学 者	268 人	1 日当たり 0.8 人
部 屋 利 用 者	9,337 人	1 日当たり 31.4 人

令和 6 年度ビデオライブラリー新作番組リスト

《 制 作 》

題 名	内 容	時 間	方 法
令和 6 年度教養講座	「国連・障害者権利委員会委員としてのこれから」 ～世界中の障害者のために頑張る～ 講 師 田門 浩 氏（弁護士）	123 分	手 話 字幕版
令和 6 年度 神奈川県要約筆記者 養成講習会共通講義	「聴覚障害の基礎知識（2）」 講 師 野田 あやか 氏 （特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協 会副理事長）	108 分	手話通訳 字幕版
	「対人援助Ⅰ」 講 師 石川 美奈 氏 （特定非営利活動法人神奈川県中途失聴・難聴者協 会副理事長）	96 分	手話通訳 字幕版
	「日本語の基礎知識（1）」 講 師 齋木 信也 氏 （元鎌倉女子大学児童学部児童学科准教授）	109 分	手話通訳 字幕版
	「日本語の基礎知識（2）」 講 師 齋木 信也 氏 （元鎌倉女子大学児童学部児童学科准教授）	101 分	手話通訳 字幕版
	「要約筆記者のあり方Ⅰ」 講 師 工藤 栄子 氏 （神奈川県要約筆記協会会長）	119 分	手話通訳
令和 6 年度三者共催 要約筆記者研修会	「知っているようで実は知らない？ 防災のいろいろ」 講 師 瀬戸 勇 氏 （横浜市消防局警防部指令課）	131 分	手話通訳
令和 6 年度 神奈川県手話通訳者・ 要約筆記者派遣懇談会 講演	「教育機関における情報保障の現状と課題」 講 師 萩原 彩子 氏 （国立大学法人筑波技術大学障害者高等教育研究支 援センター助教）	118 分	手話通訳 字幕版

題 名	内 容	時 間	方 法
令和 6 年度 神奈川県手話通訳者 養成講習会 「通訳 I」選考試験 (参考解答付)	令和 6 年度手話通訳者養成講習会「通訳 I」受講者 選考試験「手話の読み取り問題」の試験問題及び参考 解答	8 分	手 話
わたしの思い出写真館	桑原豊氏と黒崎信幸氏を迎え、幼少期から現在に至 るまでのお話をさせていただきます。	22 分	手 話
	桑原豊氏と黒崎信幸氏を迎え、旅行の思い出や趣味 についてお話をさせていただきます。	25 分	手 話
令和 6 年度 手話語り 総集編	令和 6 年 4 月から当センターのホームページで配信 した「手話語り」。令和 6 年度に配信した映像全 12 タイトルを総集編としてまとめました。	80 分	手 話 字幕版
ご当地検定「神奈川県」	神奈川県を、クイズを通して紹介。 (「目で聴くテレビ」提供番組)	10 分	手 話 ・ 字 幕

《 購入 DVD 》

題 名	内 容	時 間	方 法
くまもと聴障ビデオ マガジン「みるっく」	熊本県聴覚障害者情報提供センター制作の情報番組。 (令和 6 年度分 12 タイトル 12 本)	各 30 分	手 話 ・ 字 幕
手話この魅力あるこ とば №.44	石川県：鴻野 一緒氏、静岡県：古知きよし氏の手話 語りを収録。	48 分	手 話
手話この魅力あるこ とば №.45	鳥取県：野儀博之氏、高知県：竹島春美氏の手話語 りを収録。	50 分	手 話
手話この魅力あるこ とば №.46	三重県：大屋隆氏、和歌山県：数見満氏の手話語りを 収録。	47 分	手 話
手話この魅力あるこ とば №.47	長野県：宮下豊輔氏、沖縄県：山城杲氏の手話語りを 収録。	46 分	手 話
手話この魅力あるこ とば №.48	兵庫県：中内つや子氏、東京都：山本要氏の手話語 りを収録。	46 分	手 話

題 名	内 容	時 間	方 法
手話この魅力あることば №.49	大分県：加藤敬三氏、京都府：宮下富美子氏、広島県：小島巖氏の手話語りを収録。	77 分	手 話
手話この魅力あることば №.50	鹿児島県：小林紳也氏、群馬県：佐藤正太郎氏、埼玉県：成田みき子氏の手話語りを収録。	77 分	手 話
手話この魅力あることば №.51	滋賀県：徳田千鶴子氏、青森県：斎藤繁氏の手話語りを収録。	60 分	手 話
手話この魅力あることば №.52	山形県：小野善邦氏、奈良県：永井一江氏の手話語りを収録。	47 分	手 話
手話この魅力あることば №.53	千葉県：佐藤近延氏、岐阜県：後藤芳子氏の手話語りを収録。	53 分	手 話
手話この魅力あることば №.54	香川県：合田保子氏、秋田県：井上秀晴氏の手話語りを収録。	41 分	手 話
みんなの手で 老ろう介護 (企画・制作) 特定非営利活動法人 日本聴覚障害者 コンピュータ協会	<ディスク 1> 2018 年 11 月～2019 年 12 月に「目で聴くテレビ」で放映されたものを再編したもの。 第 1 話「老ろう介護」、第 2 話「その時は突然来る!」、第 3 話「病院とのコミュニケーション」、第 4 話「介護保険って何?」、第 5 話「いろいろな選択肢」、第 6 話「家に帰ろう～在宅介護～」を収録。	63 分	手 話 ・ 字 幕
	<ディスク 2> 2018 年 11 月～2019 年 12 月に「目で聴くテレビ」で放映されたものを再編したもの。 第 7 話「施設に入る道」、第 8 話「親と子のコミュニケーション」、第 9 話「それぞれの生きがい」、第 10 話「疲れない介護が大事」、第 11 話「みんなの手で」、最終話「お互いのメッセージ」を収録	74 分	手 話 ・ 字 幕

《 寄贈 DVD 》

題 名	内 容	時 間	方 法
令和 6 年度 神奈川県議会定例会	手話通訳者をワイプ方式で挿入した、神奈川県議会中継。 (令和 6 年度分 8 タイトル 8 本)	各 90 分	手話通訳

題 名	内 容	時 間	方 法
手話で指導する！ ロコモ体操	「ロコモ」とは、ロコモティブシンドロームの略で、立ったり歩いたりする身体能力が低下した状態のことを言います。 「講義編」、「ロコモ度テスト」、「解説編」、「デモンストレーション」、「みんなでロコモ体操に挑戦しよう！」を収録。 制作：札幌手話通訳問題研究会（みんなの健康を考える班）	62 分	手 話 ・ 字 幕
首都圏ネットワーク 埼玉発！ 芸術が街を変える 社会とつながる 伝えたい！ 手話演劇の魅力	高校生が手話の演劇やダンスなどを競う「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」。埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園は、第 10 回大会で準優勝した。大会では、手話言語の特徴を意識した表現が高い評価を受けた。またテーマ選びでは、ろうの高校生たち自身が、日常生活で感じた切実な問題を取り上げ、演劇を通じて人々に訴えている。 埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園演劇部の皆さん	6 分	字 幕
ナンプンノイチ 「85 分の 1 のヒトって？手話通訳士」 「23 分の 1 のヒトって？生活拠点がいくつもある人」	〇〇な人は、日本人の何人にひとり？数字をもとに現代をひも解く 5 分のドキュメント。聴覚・言語障害がある人は約 34 万人。一方で手話通訳士の資格を持つ人は約 4 千人。85 人に対して 1 人の手話通訳士。番組では 2 人の手話通訳士を取り上げ、手話への思いを伺う。また、〇〇な人は、日本人の何人にひとり？数字をもとに現代をひも解く 5 分のドキュメント。全国 15 万人を対象にした調査で、複数拠点生活を送る人は 23 人に 1 人。グラフィックデザイナーのかたわら、富士吉田で朝ごはん屋を始めた秋山さんもその 1 人。複数の拠点を持つって、どんな感じ？新しい生活のスタイルを見つめる。2 番組収録。	10 分	字 幕
きょうの健康 豊かな人生の処方せん 男性にも知ってほしい！更年期のこと 女性の更年期症状は 100 以上？	更年期障害という言葉は有名だが、女性でもその内容を「よく知らない」という人は多い。けれども、更年期障害の人の症状には環境要因も大きく影響する。家庭でも職場でも、みんなが更年期障害を理解し、サポートすることが大切だ。	15 分	字 幕

題 名	内 容	時 間	方 法
きょうの健康 豊かな人生の処方せん 男性にも知ってほしい！更年期のこと 男性更年期障害とは？	男性の更年期障害。言葉は知っていても実際の症状は知らないし、自分が不調になっても更年期障害を疑ったりはしない。こういう男性が多いのでは？ 番組では、男性更年期障害の注意が必要な症状の見分け方から改善方法までを紹介する。	15 分	字 幕
手話恐竜図鑑	みんな、恐竜は好きかな？手話のおにいさんと一緒に恐竜の化石を見に行こう。ティラノサウルスやトリケラトプスなど、全部で9種類の恐竜を紹介します。恐竜がいたのは何百万年前なの？どうして絶滅しちゃったの？など恐竜豆知識のコーナーもあります。（すべての漢字にルビ付き）	30 分	手 話 ・ 字 幕
悩みを抱えた人を 身近で支援する存在 ～ゲートキーパーの 心得～	ゲートキーパーとは、悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聴いて、必要な支援につなげ、見守る人のこと。いま、ゲートキーパーの存在が必要とされています。ゲートキーパーになるには特別な研修や資格は必要ありませんが、準備ができていないと不適切な対応をとってしまうことがあります。この DVD では、ゲートキーパーの心得や、サポートを必要としている人にどのように関わるとよいかを学びます。	22 分	手 話 ・ 字 幕
超多様性 トークショー！ なれそめ 幸せを見つけた！ 聞こえない彼& 聞こえる彼女	なれそめの数だけいろんな人生の楽しみ方がある！カップルの「なれそめ」をきっかけにいろんな人生の楽しみ方についておしゃべりする番組。 聞こえない世界で育ち、会社員となり初めて聴者と接して戸惑っていた、ととさん。複雑な家庭環境で育ち、常に自分の幸せを探して生きてきたという、ゆうこさん。彼女が手話通訳者としてととさんと出会ってから、つらい過去さえ最高だと思える、とびきりの幸せを手に入れた！	29 分	字 幕

題 名	内 容	時 間	方 法
デフ・ヴォイス 法廷の手話通訳士 【手話版】 前 編 「記憶の中の少女」	耳が聞こえない両親をもつコーダの荒井尚人が、法廷での手話通訳をきっかけに過去の事件と対する…。現在と過去が複雑に絡みあう社会派サスペンス。 荒井尚人は、コーダであることに複雑な感情を抱えながら生きてきた。しかし、交際する安斉みゆきとの将来を考え、手話通訳士の道を選ぶ。そんな尚人のもとを刑事の何森稔が訪れ、殺人事件について尋ねる。その事件は 17 年前に尚人が手話通訳を担当した、決して忘れることのできない事件と関係していた。そこに、手塚瑠美から仕事の依頼が舞い込むが…。	73 分	手 話 ・ 字 幕
デフ・ヴォイス 法廷の手話通訳士 【手話版】 後 編 「もうひとつの家族」	荒井尚人は、海馬学園理事長殺人事件の重要参考人である門奈哲郎と対面する。17 年前に尚人が手話通訳を担当した門奈には、娘が 2 人いたはずだったが、娘は 1 人だと伝えられる。不審に思った尚人は真相を追うことに。手塚瑠美は罪に問われることを覚悟の上で門奈を守ろうとしていた。過去の事件との関わりを確信した尚人は、何森稔に門奈の居場所を告げるのだが…。	73 分	手 話 ・ 字 幕
NHKみんなの手話 (2024 年度放送分) (1) ～ (3)	ようこそ、手話の世界へ！舞台は、手話を教えるのが大好きなろう者の店主が開くカフェ「みんなの手話」。ここで手話を教えてもらえると聞いてやってきたドラムさん。手話は初めてというドラムさんが手話学習に挑戦します！ (1) 「目で見ることば」手話の世界へ、 (2) 名前、(3) 色・形の 3 回を収録。	72 分	字 幕
NHKみんなの手話 (2024 年度放送分) (4) ～ (6)	ようこそ、手話の世界へ！舞台は、手話を教えるのが大好きなろう者の店主が開くカフェ「みんなの手話」。ここで手話を教えてもらえると聞いてやってきたドラムさん。手話は初めてというドラムさんが手話学習に挑戦します！ (4) 注文-1、(5) 注文-2、(6) 年齢の 3 回を収録。	72 分	字 幕

題 名	内 容	時 間	方 法
NHKみんなの手話 (2024 年度放送分) (7) ～ (9)	ようこそ、手話の世界へ！舞台は、手話を教えるのが大好きなろう者の店主が開くカフェ「みんなの手話」。ここで手話を教えてもらえると聞いてやってきたドラムさん。手話は初めてというドラムさんが手話学習に挑戦します！ (7) 出身地・住まい、(8) 仕事、(9) 月日・曜日の3回を収録。	72 分	字 幕
NHKみんなの手話 (2024 年度放送分) (10) ～ (12)	ようこそ、手話の世界へ！舞台は、手話を教えるのが大好きなろう者の店主が開くカフェ「みんなの手話」。ここで手話を教えてもらえると聞いてやってきたドラムさん。手話は初めてというドラムさんが手話学習に挑戦します！ (10) 1 日の予定、(11) 時間、(12) おさらいの3回を収録。	72 分	字 幕
ちびまる子ちゃん 「まる子、バーゲンの 広告につられる」の巻 「まる子の涼しい大作 戦」の巻 「まる子のおむすびこ ろりん」の巻	まる子はお母さんとお姉ちゃんと一緒にバーゲンに向かう。いろいろなものが安く売られていて、お母さんとお姉ちゃんはまるで人が変わったように買いまくる。そんな二人の勢いにすっかり圧倒されたまる子は…。 他に、「まる子の涼しい大作戦」の巻 「まる子のおむすびころりん」の巻を収録。	50 分	字 幕
ちびまる子ちゃん ～放送 1500 回記念！ 5 月のさくらももこ 原作まつり～ 「まるちゃんお誕生会 をひらく」の巻 「まるちゃん小鳥がほ しくなる」の巻 「まる子、セキセイイ ンコを飼う？」の巻 「まる子、月を見上げ て」の巻	「まるちゃん お誕生会をひらく」の巻 次の日曜日で 9 歳になるまる子は、お誕生日会を楽しみにしていた。しかし、お母さんに、招待する友達は 5 人までと言われてしまう。迎えた当日、みんなからプレゼントをもらい、トランプを楽しむが…。そしてそれぞれのお誕生日会にも行く約束をすることとなる。 他に、「まるちゃん 小鳥がほしくなる」の巻、「まる子、セキセイインコを飼う？」の巻、「まる子、月を見上げて」の巻を収録。	50 分	字 幕

